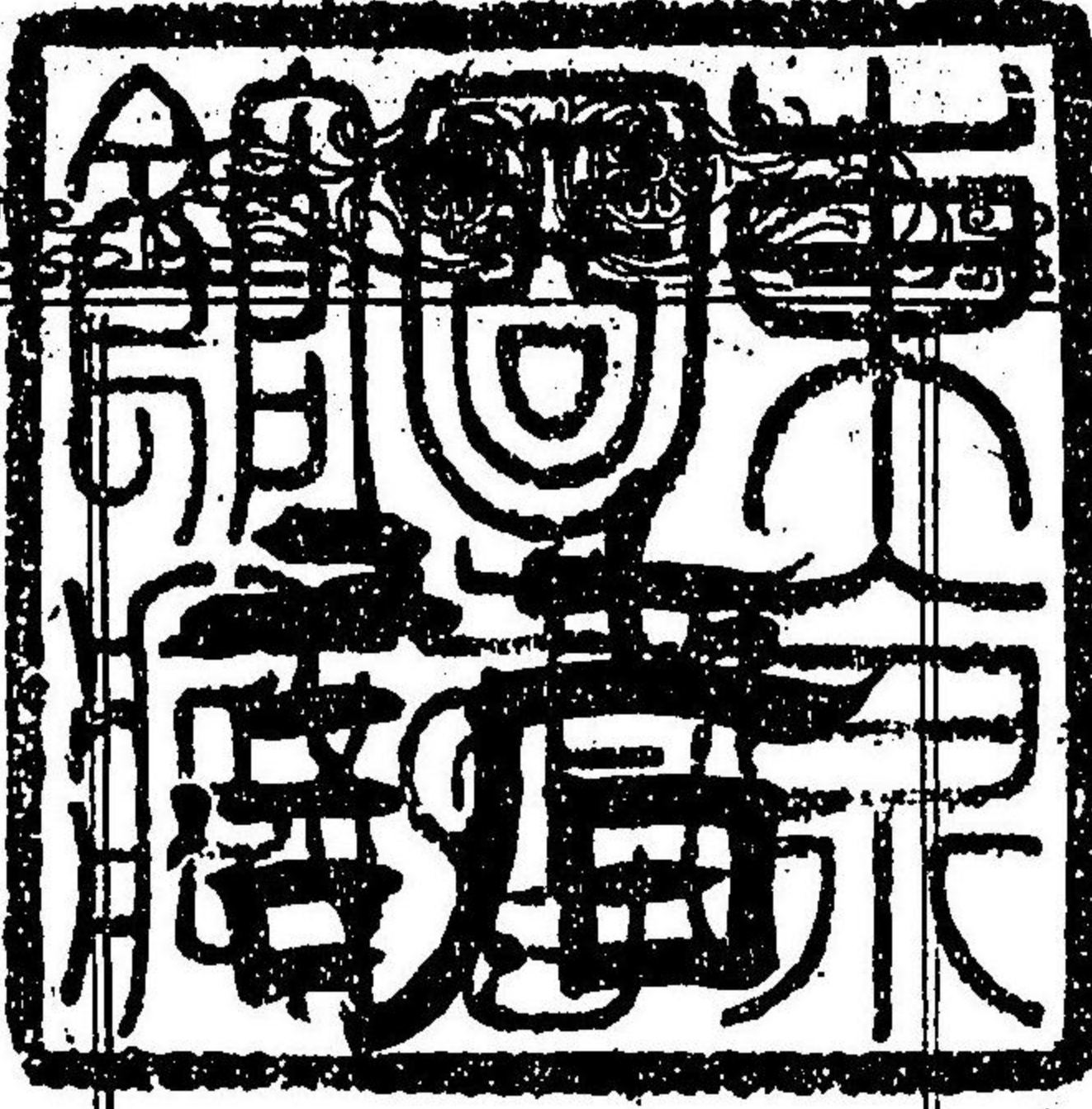


明治二十年二月七日寄贈 2707

今田昂德烈譯



聖略傳

明治十九年七月 正教會

諸聖畧傳第五卷目錄

五月之部

- 一日 成徳ナル古洞者イオアン、アンタ
オヒヤ城ノ主教聖グリゴリイ、聖
致命者ハリストフォルフェオナ、アン
トニシ及ヒ王城ノ總主教聖トリ
フォンノ紀念
- 二 成徳者フェオドルトリヒン及アン
テイオヒヤノ總主教聖アナスタシ
イシナイト及ヒ總主教聖ゲオル

ギイノ紀念

二

三 カムパニヤ郡ノ主教神品致命者

聖イアンヌアリイノ紀念

三

四 聖フエオドルシケオトノ傳

全

五 聖大致命者凱旋者ゲオルギイ及

皇后アレキサンドラノ紀念

十六

六 聖致命者將軍サウワ及ヒ兵士七

十人ノ紀念

三十七

七 聖使徒福音者マルクノ傳

三十九

八 アマシヤ城ノ主教聖ワシリイノ

紀念

四十五

同 ベルムノ主教聖ステファンノ傳

五十五

九 救主ノ親戚聖シメオンノ紀念

八十三

十 トロフノ聖キリールノ紀念

八十五

十一 聖致命者フエオグコイ、ルフ、アンテ

パードル、フエオステイグ、アルテマ、マ

グン、フエオドト、フウマシイ及フィリ

モンノ紀念

九十三

十二 セワエデイノ子聖使徒イアコフノ

紀念

全

十三 聖預言者イエレミヤノ紀念

九十七

十四 苦難ヲ忍ヒシ聖ポリス及グレブ

即聖洗ノ時ロマン及ダウイドト稱

セシ者ノ紀念

百二十三

全 ホルガリヤ王福禱ナルポリスノ

紀念

百三十三

全 聖致命者エスベル其妻ツヤ其子

キリアク及フエオドゥルノ苦難

百四十三

十五 ベチエラ修道院ノ院掌成徳ナルフエ

オドシイノ傳

百五十一

十六 致命女聖ベラギヤノ傳

百七十五

十七 聖大致命女イリナノ傳

百九十

十八 多難ヲ受ケシ義人イオウノ紀念

二百九

十九 致命者聖アカキイノ苦難

二百十七

二十 成徳ナル大アルセコイノ傳

二百二十八

廿一 預言者聖イサイヤノ紀念

二百三十八

全 奇蹟行爲者聖ニコライノ遷座祭

二百五十七

廿二 福祉ナルタイシヤノ紀念

二百六十二

全 聖使徒シモンフロトノ紀念

二百六十八

廿三 神品致命者聖モリキイノ苦難

全

全 スラワン入ノ教化者成徳ナルメ

フオデイイ及コンスタンティンノ傳 二百七十四

廿四 キーブルノ主教聖エビフアコイノ

傳 三百十九

廿五 聖致命女グリケリヤ及ヒ聖致命

者ラオデイイノ紀念 三百三十三

廿六 成徳ナルセラピオンシンドコト

(衣祭)ノ紀念 三百卅四

全 聖致命者イシドルノ紀念

三百卅七

廿七 成徳ナル大バホミイノ傳

全 三百五十八

廿八 成徳ナルフエオドルノ紀念

三百五十九

廿九 聖使徒アンドンロニク及ヒ其妻同

勞者ユーニヤノ紀念

三百六十

三十 アンキルノ致命者聖フエオドト及

ヒ七處女テクサ、アレキサントラ、

クラウデイヤ、ファイナ、エウフラシヤ、
マトロナ及エリヤノ苦難 三百六十七

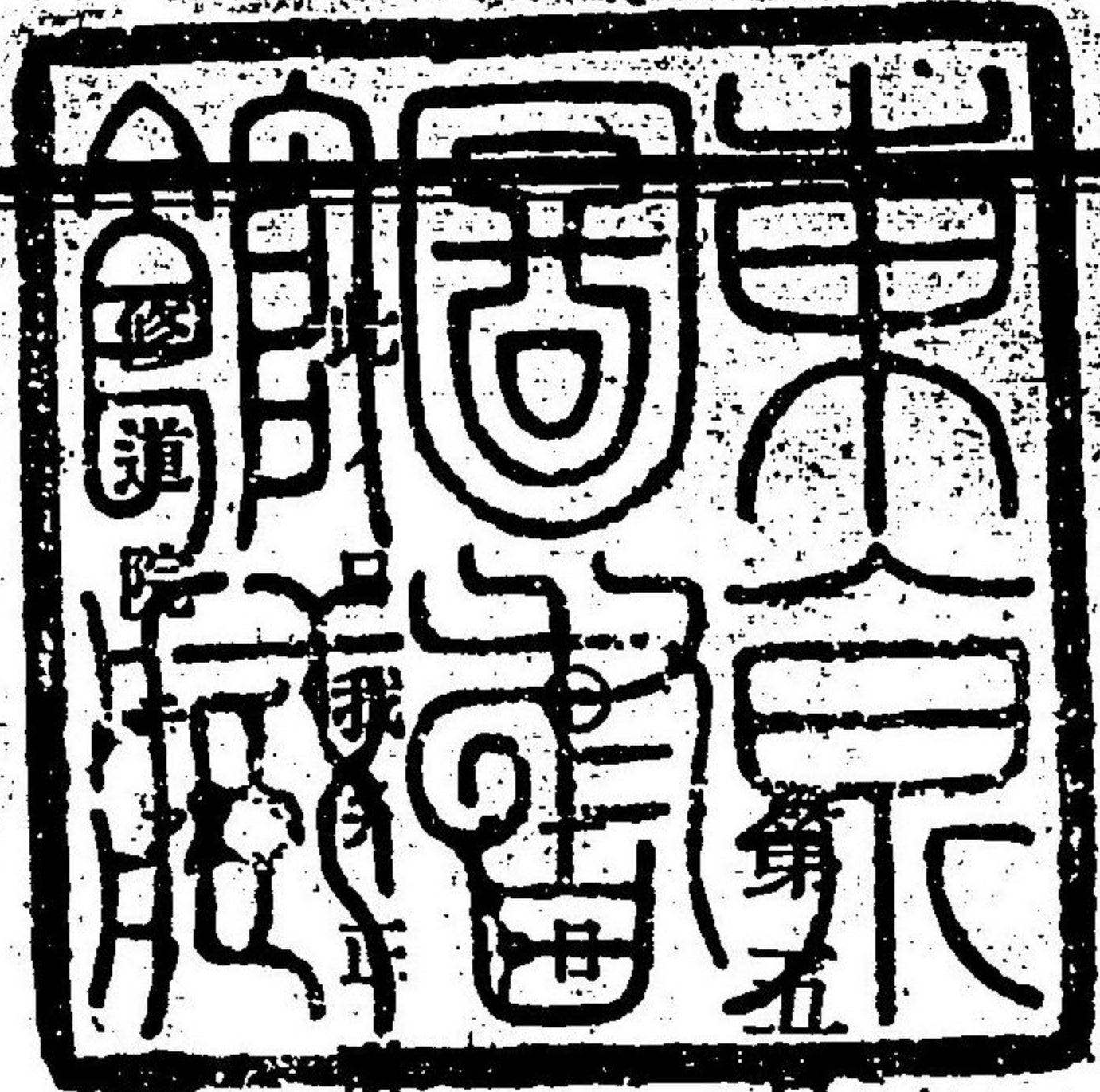
卅一 プルス城ノ主教神品致命者聖バ

トリキイ及ヒ三司祭アカキイ、メ
ナンドル及ポーメンノ紀念 三百七十七

第五月之部目錄終

諸聖略傳卷之五

墨斯科巴弗米怙瓦編輯
仙臺 今田昂德烈 譯



第五月之部

此日我年教會ハ古大修道院ト稱スル聖ハリトシノ大
道ヲ修メシ成徳ナル古洞者イオアン

斥像異端者ヨリ難ヲ受ケシピシデア郡ノアンテイオヒヤ城

ノ主教聖シリゴリイ、

聖大致命者ゲオルギイノ苦難ト奇蹟トヲ見テ反正セシデ

オシツリテイアシ帝ノ護衛兵聖致命者ハリストトフォル、フェオナ、ア
ントニン及ヒ

王城ノ總主教聖トリフォンノ紀念ヲ行ヘリ

○二日

此ノ日聖行ヲ以テ著名ナル勤行者、成徳ナルフェオドルトリ
ヒン及ヒ偽教者ニ抗シ正教ノ定理ヲ堅ク守リシアンタイオ
ヒヤ城ノ總主教聖アナスタシイシナイト及ヒアンタイオヒ
ヤ城ノ總主教聖ゲオルギイノ紀念ヲ行ヘリ

○三日

此ノ日ロマ帝ディオシクリテイアンガ在位ノ時チアポリノ近邑

アテオリニ在テ難キ受ケ致命セシカムバニヤ郡ノ主教、神
品致命者聖イアンヌアリイチ紀念セリ其遺骨ハチアポリ
ニ埋葬セラレ而シテアポリノ人ハ彼ヲ尊ヒテ天ニ在セル
守護者ト爲シ謹テ其紀念祭ヲ行ヘリ

○聖フェオドルシケオトノ傳四日

此ノ大勤行者ハ第六世代ノ頃、小アシヤノシケヤ邑ニ生レ
タリ其父母ハ虔敬ニシテ一老母及ヒ未タ嫁セサル姉妹ト
偕ニ居リ一家親睦セリ子チ生ムニ及テ益々幸福ヲ享ケ之
チフェオドルト名ツク神ノ賜モノ、義ナリ蓋全家子ノ生ル
ヲ以テ神ノ殊恩ト爲セハナリ

日月矢ノ如クフエオドル已ニ六歳ニ至リケレハ其父母ハ彼
チシテ預メ兵籍ニ入ラシメント欲シ母ハ之カ爲ニ錦衣玉
帶ヲ作り王城ニ到リテ皇帝ニ謁セシメントナシタリ然レ
ト或ル日聖大致命者ケオルギイ夢ニ其母ニ顯レテ曰ク爾
徒ニ勞スル勿レ蓋シ在天ノ主爾ノ子ヲ徵シ玉ヘリト母覺
テ以爲ラシ此ノ言ハ必ス幼童ノ夭死ヲ示スナラント大ニ
哭キ悲シミ因テ彼ヲ兵士トナサントスルノ念モ自ラ絶ニ
ケリ然レト幼童ハ健カニシテ成長シ八歳ニシテ學校ニ入
リ品行固ヨリ方正ニシテ日夜勉勵シ學業駿々トシテ大ニ
進ミケレハ教師及ヒ學友等皆之ヲ賞嘆セリフエオドル人ト

ナリ温良曾テ學友ト不和ヲ醸セシナク相親睦シテ若シ
學友等ノ不和ヲ見レハ力ヲ盡シテ之ヲ和セシナク計レリ
フエオドルノ家ニ虔敬ナル一老人寓シテ名ヲステファント云
フ彼レ常ニ祈禱シテ禁食ヲ守ルト甚タ嚴重ナリ小兒ラエオ
ドル常ニ此ノ人ヲ愛シ屢々其房室ニ至リテ之ト談話シ勉
メテ其行ニ倣ハントシ時トシテハ學校ヨリ歸リ午飯ヲ喫
ハスシテ彼レノ嚴齋ニ倣ヒ或ハ學習ノ餘暇アル時ハステ
ファント偕ニ邑外ノ山上ニ建テタル聖大致命者ケオルギイ
ノ聖堂ニ詣リテ祈禱ヲ爲セリ然ルニフエオドルノ母ハ若シ
彼カ家ニ歸ラサル時ハ必ス學校ニ在ルナラント思ヒ其健

康ヲ害セシテ恐レ教師ニ就キ授業終レハ直ニ彼ヲ家ニ
 歸サシテ請ヒタレトフエオドルハ學校ヨリ直ニ聖堂ニ到
 リテ祈禱シ而シテ授業ノ時至レハ又他ノ小兒等ト共ニ學校
 ニ登リタリ
 既ニシテフエオドルノ母彼レノ毎夜竊ニ起キテ聖堂ニ行シ
 テ知リ愛兒ノ健康ヲ害セシテ恐レ或ル夜嚴シク懲ラシ
 テ彼ヲ臥床ニ縛シタリ然ルニ聖大致命者ゲオルギイ夢ニ
 又其母ニ顯ハレテ曰ク爾ノ子ヲ神ヨリ遠サクル勿レトフエ
 オドルノ父母因テフエオドルニ問テ曰ク爾狐狸豺狼ノ巢窟
 ナル原野ヲ怖レヌ夜之ヲ經テ聖堂ニ行シハ抑々何ノ故ナ

ルヤフエオドル對テ曰ク我獨リ行コラス皎々タル白衣ヲ
 着ケシ少年アリ吾カ手ヲ取り吾ヲ導テ聖堂ニ至リ途上或
 ハ危キヲアレハ彼レ之ヲ防ゲリト此ニ於テ全家皆聖大致
 命者ゲオルギイカ小兒ヲ守護セルヲ悟リ神ノ旨ノ成ルヲ
 願フテ後、再ヒ之ヲ止ムルコトナカリシトゾ
 フエオドル十二歳ノ頃ヨリ益々熱切ニ祈禱ヲ行ヒ聖書ヲ學
 ヘリ小妹アリウラッタト名ツク兄妹甚ク睦シウラッタ深ク兄
 テ敬愛シ其虔敬ナル行ニ倣ハシテ勉メ兄ニ從ヒ屢々聖
 堂ニ到リテ相偕ニ熱切ニ主ニ祈禱ヲ獻セリ
 フエオドル己カ近邑ニ隱士グリケリイト云ヘル者ノ住スル

ナ聞キ數々ユイテ談話ヲ爲シ而シ其世ヲ捨テ修道院ニ入
 ラントスルノ志ヲ告ケタリシカグリケリイ之ニ諭シテ曰
 ク時至レハ其望必ス達スヘシ然レト今ハ父母ノ膝下ニ在
 リテ孝養情ル勿レト
 其後幾クモナウシテフエオドル手ツカテ聖ゲオルギイノ聖
 堂ノ傍ニ洞穴ヲ穿テ此ニ移リ數々聖堂ニ到リテ祈禱ヲナ
 シ聖餅ヲ以テ食ニ充テ彼レノ祖母エリビディア來リテ餅ト
 野菜ヲ與フルモ悉ク是ヲ通行ノ人々ト貧者ニ分ナタリ然
 レトフエオドルハ斯ノ如キ身生ヲ以テ心ニ足レリトセズ彼
 ノ前驅イナアンカイズライリ民ニ顯出スルノ前曠野ニ居

リシ如ク此ノ世ヲ送ラント欲シ遂ニ遠ク山中ノ洞穴ニ隱
 レ知己ナル一ノ堂役者ニ托シテ洞穴ノ戸ヲ鎖サシメ時々
 小窓ヨリ一小片ノ餅ト水トヲ送ラントヲ請ヒタリ然レト
 堂役者ハ彼レノ一家ノ悲嘆ニ暮ル、ヲ見ルニ忍ヒス數日
 ナ經テフエオドルノ居所ヲ告ケ而シテ父母フエオドルニ家ニ歸
 ルヲ勸メシカハフエオドル父母ノ意ニ違フヲ欲セス一時家
 ニ歸リテ父母ト偕ニ居タリ
 其後幾クモナウシテ此ノ地ノ主教彼ヲ叙聖シテ司祭トナ
 セシカハフエオドル銳意新職ヲ奉シ且大約此ノ時ヲ以テバ
 レステナヲ周遊シ聖蹟ヲ巡拜シ而シテイオルダン河ノ近傍

十
ニアルホゼワイト云ヘル修道院ニ於テ剪髮シテ修士ト爲
リ後國ニ歸リテ又聖ゲオルギイノ聖堂ニ居リ常ニ祈禱ヲ
獻シ慎ンテ善事ヲ行フノ外他事ナカリケレハ其聖行ノ風
評ハ多クノ民ヲシテ歸依ノ心ヲ起サシメ來リテ其教訓ヲ
請フ者日ニ多クフエドル懇ロニ之ヲ訓戒シ且其祈禱ノ力
ヲ以テ病者ヲ癒セリ彼レノ祖母エリビダイヤ及ヒ叔母デイス
ペニヤ小女ウラッタト與ニ彼レノ傍舍ニ遷リ其聖行ニ倣ハ
ントシテ間斷ナク祈禱ヲ爲シ且操作シテ得タル金銀ハ一
モ己ノ爲ニ費スナク悉ク貧者ニ濟施セリ
光陰流ルカ如ク茲ニ許多ノ歲月ヲ經テ叔母デイスベニヤハ

世ヲ逝リ小女ウラッタハ女修院ニ入リシカ幾クモナウシデ
亦主ニ復歸シ獨リ老祖母エリビダイヤ暫クノ間孫フエドル
ト偕ニ居リシモ後修道院ニ入リタリ此ニ於テ聖フエドル
ハ教訓ヲ受ケントシテ己ノ許ニ來レル婦女ハ悉ク之ヲ祖
母ノ許ニ遣ハシケレハ彼ハ祈禱禁食及ヒ善行ヲ爲スヘキ
ヲ教ヘシユヘ多クノ婦女其醜行ヲ改メテ主ノ誠ニ反正セ
リ聖フエドル久シク孤棲シ許多ノ星霜ヲ經テ年少ナルニ
弟子ヲ得シカハ能ク之ヲ教訓シ二三ハアリ我カ名ハ爲ニ
地ニ隨テ集ル者ハ我レ亦其中ニアリト（馬太二十章八節）ノ救主ノ
言ヲ記憶シテ彼等ト偕ニ操作シテ祈禱ヲ爲セリ

フェオドル 苦行ト捨己トヲ以テ大ニ己ノ肉体ヲ衰弱ナラシ
 メ而シテ常ニ苦難ヲ甘シ受ルハ神ノ喜ミスル所ナレハ自
 ラ鐵籠ヲ作り一年ノ間過半其中ニ居テ常ニ惰ルヲナク祈
 禱セリ其後敬虔ナル祖母エリビデヤ永寝ニ就キシカハフェ
 オドル之ヲ埋葬セシカ不幸ナル哉忽チ親族ヨリ慈母ノ永
 寝シタルヲ以テ家ニ歸リテ其富裕ナル遺産ヲ受クベシト
 ノ訃音ヲ得タリフェオドル之ヲ悲哀シ其魂ノ安樂ヲ得ン
 ヲ祈リタルモ家ニ歸リテ母ノ遺産ヲ受クルヲ爲サハリ
 キ
 神ハフェオドルニ奇蹟ヲ行ヒ病ヲ痊ヌノ異能ヲ賜ヒシカハ

其愈痊ヲ得タル人々ノ中常ニ彼ノ教訓ヲ受ケ彼ヲ龜鑑ト
 シテ己ヲ益セントチ希望シ來リテ彼レノ近傍ニ居テ移ス
 者日一日ニ多ケレハ彼レ遂ニシケオト修道院ヲ創立シ其
 院長トナリテ兄弟ノ爲ニ規則ヲ編ミタリ又聖ゲオルギイ
 ノ聖堂ハ多クノ兄弟ヲ入ルニ餘地ナキヲ以テ天軍將ミ
 ハイルノ名ニ依テ一聖堂ヲ立タリ又フェオドルノ弟子ノ中
 後ニ聖行ヲ以テ著ルシキ者多カリシト云フ
 フェオドル 其行ノ聖ナルト奇蹟ヲ行フトニヨリチ其榮名遠
 ク四方ニ轟キタリフェオドル曾テマウリキイカ帝位ニ上ラ
 ントチ預言セシカ後彼レ果シテ帝位ニ上ルニ及ンテフェオ

ドルニ祝福ト祈禱トテ請ヒ而シテフエオドルハシケオト修道
 院ニ來ル貧者ニ日ニ與ヘントスルノ麥ヲ給センヲ請ヒ
 シカハマウリキイ帝モ是ヲ許シタリ其後アナトリヤノ主
 教世ヲ逝リフエオドル其後任ニ擇ハレ辭スルニ由ナク鬱々
 トシテ修道院ヲ去リ遂ニ主教トナリタレモ屢々修道院ヲ
 訪ヒ昔日ノ閑靜ナル身生ヲ思フテ悲メリフエオドル再ヒイ
 エルサリムニ至ルノ途次聖サウワノ修道院ニ入ラント欲
 セシカ聖大致命者ゲオルギイ夢ニ彼ニ顯ハレテ彼ヲ要ス
 ル所ノ主教部ヲ去ルヲ止メケレハフエオドル之ニ從テ粉
 骨勉勵ノ十一年ノ間教會ノ事務ヲ治理セリ或ル日フエオド

ル神品及ヒ教衆ヲ集メ新ニ他人ヲ撰テ主教ト爲シ而シテ己
 レヲシケオトノ修道院ニ還サンヲ請ヒシモ人々皆其事
 務ニ練達セシ善牧師ヲ遣ルヲ欲セサレハ容易ニ之ヲ諾
 セサレモフエオドル屢々之ヲ請フテ遂ニ其望ミヲ達スルヲ
 テ得大ニ喜テ己ノ修道院ニ歸リ昔日ノ如ク力行操作シテ
 光陰ヲ送レリ後再ヒ王城ニ至リテ總主教ノ遠カラスノ世
 ナ逝ルト教會及ヒ國家ノ將ニ艱難ニ陷ラントスルヲ預
 言セリ是レフエオドル高年ニ至リシ時大致
 命者ゲオルギイ彼ニ顯ハレテ一ノ杖ヲ授ケ遠ク己ニ隨テ
 行クヘキヲ命シテ死ノ近キヲ告ケシカ「パスハ」祭ノ後、彼レ

遂ニ世ヲ逝リタリ後フエオドカノ弟子エレウシイナル者其
傳ヲ録集セシト云フ

○聖大致命者、凱旋者ゲオルギイ及ヒ皇后アレキサ
ンドラノ紀念五日

聖ゲオルギイハ第四世代ノ始ノ比ナルロマ帝ディオクリタイ
アンノ時ノ人ナリ其父ハ彼レ尙幼キ時ハリストスノ名ノ
爲ニ難ヲ受ケテ致命セリ故ニ其母ハバレスタイナニ多クノ
財産アリシ故彼處ニ移リヌリ年少ナルゲオルギイ近衛兵
ニ入りシカ長官彼ノ容貌秀雄ニシテ志氣勇敢ナルヲ見テ
大ニ之ヲ愛シ二十歳ノ時擢セラレテ千夫ノ長トナレリ而

シテ彼レノ母大約此ノ時ヲ以テ世ヲ逝リタリ
ゲオルギイ近衛隊ノ要職ニ居リ廟議ニ參セシカディオクリ
タイアン帝ハ彼レカ如何ナル宗教ヲ信セシヤ之ヲ知ラサリ
キ
此ノ時ニ當テディオクリタイアン帝最ト嚴酷ナル詔ヲ下シ凡
ソハリストス教ノ經典ハ皆之ヲ焚滅シ且悉ク聖堂ヲ毀テ
テ「ハリストスアコン」ヲ窘逐スヘキヲ命シタリゲオルギイ
是ヲ聞キ斷然トシテ死ヲ決シ悉ク金銀財寶ヲ朋友ニ與ヘ
久ク使役セシ奴僕ヲ放テ困究者ニ田園及ヒ多クノ財産ヲ
分チ與ヘタリ

勇敢ナル少年ケオルギイ斯ノ家産ヲ措置シテ衆人ノ大ニ
 怖ルヲモ願ニス侃々トシテ「ハリストステアコン」ヲ處分判決
 スヘキニコミデヤノ廟議ニ出テ之ニ抗論シテ曰ク陛下及
 ヒ侯伯議官ノ各位ヨ何ソ永ク法律ヲ口實トシテ惡事ヲ行
 ハント爲シ玉フヤ何ソ罪過ヲ犯サス他人ヲ侮辱セスノ常
 ニ善良敬虔ナル行ノ龜鑑ヲ現ハセシ者ヲ究追シ玉ハント
 スルヤ吁爾等ハ迷惑シテ偶像ヲ拜セリイイススハリスト
 スハ眞ノ神ナリ陛下及ヒ各位ヨ願クハ眞理ヲ尋求セヨ或
 ハ能ハサルモ己ノ悟ラサルカ爲ニ妄ニ眞理ヲ悟リ人ヲ
 擾スヲ勿レト

侯伯議官等ケオルギイガ忽然來リシト其言語ノ果斷ナル
 ニ驚キ默然トシテ一言ヲモ發スル者ナク帝ノ答如何ナラ
 ント待チタリケルニディオシリティアン帝モ大ニ驚キ惘然ト
 シテ霎時言語モナカリシカ遂ニ首ヲ搖カシテ意ヲ一官吏
 マグチンテイイニ示シケオルギイニ答フルヲ命シタリマ
 グチンテイイ、ゲオルギイチ己ノ前ニ召シ問テ曰ク何人カ爾
 ニ教ヘテ斯ル不遜ナル事ヲ行ハシメシヤ少年曰ク眞理ナ
 リ曰ク眞理トハ如何ナル者ソ曰ク爾等ニ審逐セラレ、ハ
 リストスハ乃チ眞理ナリ曰ク爾モ亦「ハリステアコン」ナル
 カ「曰ク我ハ我カ神ハリストスノ僕ナリ我レ望チ主ニ属シ

眞理ノ爲ニ証ヲ爲サント欲シテ今此會場ニ來リシナリ
 此ノ時或ハゲオルギイヲ呵責スル者アリ騷然トシテ一言
 語モ聞キ取ルヲ能ハサレハ帝諸人ヲ制止シテ緘黙セシメ
 自ラ之ニ言テ曰クゲオルギイヨ我レ能ク爾ヲ知リ且ツ爾
 ノ雄壯ナルヲ愛シ爾ニ爵位ヲ授ケタリ今又爾カ前功ヲ思
 フテ此ノ不遜ノ所爲ヲモ赦免セント欲ス今我レ父トシテ
 爾ニ教諭ス爾ノ康壯ナル身ヲ滅ス勿レ我ノ慈憐ヲ失フ勿
 レ爾直チニ往イテ諸神ニ燔祭ヲ献セヨ
 ゲオルギイ答テ曰ク陛下軍口自ラ眞ノ神ニ歸正シテ讚美
 ノ祭ヲ献スルコソ善カルベケレ然カセハ神ハ陛下ニ天國

ヲ與ヘ玉ハン蓋地上ノ權威ハ盛衰常ナク富饒モ亦固カラ
 ス故ニ世ニ在リテ眞ノ幸福ヲ得ル能ハス且如何ナル現世
 ノ福樂ヲモ我ヲ神ヨリ遠サシル能ハス又如何ナル苦難モ
 我ヲ惧レシメテ我カ信ヲ動カス能ハス
 デイオクリティアン帝此ノ言ヲ聞イテ激怒ニ堪ヘサリケン命
 ノゲオルギイヲ獄舎ニ下シ楛ヲ以テ足ニ箠シ重石ヲ以テ
 胸ヲ壓セシメタリ然レトゲオルギイハ意氣撓マズ此ノ苦
 ナ耐ヘ忍ヒテ神ニ感謝セリ
 次朝ニ至リデイオクリティアン帝ゲオルギイヲ己ノ前ニ召シ
 出シ問フテ曰クゲオルギイヨ爾悔改セシヤト此ノ時聖致

命者ハ苦難ヲ受シ後ナレハ聲靜ニ答テ曰ク帝ヨ此ノ些少
 ナル苦ヲ以テ我カ信ヲ挫カント思ヘルヤ夫レ我カ苦ヲ忍
 フヤ否ヤヲ試ソヨリハ寧ロ速ニ我ヲ苦ムルヲ圖ルヘシ
 ト帝命ノ銳利ナル及チ插ミシ車ヲ持テ來ラシメ而シテオ
 ルギイヲ車裂セシメタリ少年ハ斯ル畏怖スヘキ苦難ヲ受
 ルト雖モ少シモ號叫スルヲ初メ聲ヲ高ウソ神ヲ讚揚
 シ次テ靜音ニ祈禱ソ其聲次第ニ衰ヘ終ニ止ミテ默シケレ
 ハ衆人皆以爲ラシゲオルギイ已ニ死セシト帝、神ノ能力ヲ
 詎リテ曰クゲオルギイヨ爾ノ神ハ何處ニ在ルヤ何ノ故ニ
 爾ノ神ハ爾ヲ此苦難ヨリ救ハサルヤト聽テ聖致命者ノ流

血淋漓タル遺体ヲ車ヨリ下スチ命シ而ソ自ラ邪神「アポル
 ロン」ノ殿ニ至リ祭ヲ獻セントセリ帝、去リシ後迅雷俄ニ鳴
 轟シ電光閃爍シテ途ヲ輝シ且多人アリ天ヨリスルノ聲ヲ
 聞クニ曰クゲオルギイヨ懼ル、ト勿レ我爾ト借ニス」ト而
 ノ神使顯ハレテ手ヲ致命者ノ躰ニ按シ疵傷ヲ癒ヤセシカ
 ハゲオルギイ自ラ車ヨリ下リ神ヲ讚揚感謝セリ兵士等之
 チ見テ大ニ驚キ偶像ノ祠ニ馳セ往イテ其爲体ヲ奏聞セン
 トセシカハゲオルギイモ兵士等ノ後ヲ追フテ彼處ニ赴キ
 タリ
 斯ノ奇蹟ノ報知トゲオルギイカ忽チ偶像ノ殿ニ來リシハ

大ニ衆人ヲ震驚セシメシカトディオクリティアン帝ハ稍久シ
 テ其眞ナルヲ信セリ此ノ時侍從アナトリイ及ヒプロトレ
 オンノ二人致命者ノ健全ニシテ精神活潑ナルヲ見、神ノ力
 ノ大ナルヲ悟リ大ニ呼テ曰ク「ハリストステアノン」ノ神ハ唯一
 ニシテ大ナル眞ノ神ナリト帝之ヲ聞キ直チニ二人ヲ罰シ
 タリ又衆人ノ中ニ多ク神ヲ信セシ者アリタレト現ハニ其
 信ヲ表スルコトヲ恐レリ皇后アレキサンドラモ此ノ時、偶
 像ノ殿ニ在リテ眞理ヲ悟リケレハ現バニ神ノ名ヲ承認セ
 ント欲シタレト人アリ之ヲ諫メシユヘ宮中ニ歸リテ帝ノ
 前ニハハリストステ承認スルヲ表ハサ、ルナリキ

神ノカスノ如ク顯ハレシモ帝尙ホ獨リ之ヲ感化スルナク
 再ヒゲオルギイヲ生石灰ノ穴中ニ埋メシカハゲオルギイ
 神ニ祈リ身ニ十字架ヲ畫シ泰然トシテ其穴中ニ入りタリ
 數日ヲ經テ帝其屍ヲ引キ出タシ命シテ其朽腐セシ遺骨ヲ
 捨テシメタリシカ奇ナル哉致命者ハ尙ホ存命シテ其身ハ
 壯健其面ハ光リ輝イテ天ノ喜悦ノ狀ヲ表ハシ從容トシテ
 祈禱シ居リシカハ之ヲ見タル人々ノ驚怪ハ言語ニ絶シテ
 ゲオルギイヲ稱讚シテ大ナル者ト爲セリ
 帝コノヲ聞キ使ヲ遣ハシテゲオルギイニ問ハシメテ曰
 シ爾如何ナル妖術ヲ以テ生命ヲ保チタルヤ」トゲオルギイ

答テ曰ク帝ヨ爾已ニ斯ノ奇蹟ヲ見タル上ハ敢テ何事モ能
 ハサルコトナクシテ奇異ニモ其依頼スル者ヲ救ヒ玉ヒシ眞
 ノ神ヲ誹謗スルコトヲ爲サ、ルヘシト思ヒシニ豈圖ンヤ爾、
 神ノ力ノ顯現ヲ以テ却テ妖術ト爲セリ我レ復タ何チカ對
 ヘンヤ唯爾ノ盲ナルヲ駭歎スルノミト
 此ノ後帝ハ尙ホモ新ニ苦刑ヲ考ヘテ燒紅セシ鐵ノ履ニ釘
 チ打タシメ而シテゲオルギイニ穿タシメテ城市ヲ引キ廻シ
 且酷ク之ヲ鞭撻シタリゲオルギイ斯ル恐ルヘキ苦難ノ中
 ニ在リテ幾回トナク自ラ呼テ曰ク進メゲオルギイヨ進メ
 ハ必ス達スヘシト而シテ心ヲ神ニ向ケ忍耐ト力トヲ賜ハ

シコトヲ祈リテ曰ク主ヨ願クハ我ヲ眷顧シテ我カ艱難ヲ
 見、爾ノ僕ノ號叫ノ聲ヲ聞キ玉ヘヨ衆人ハ爾ノ聖ナル名ノ
 爲ニ我ヲ惡ミ今我カ身ハ戰慄ス願クハ主、我ヲ愈シテ我ニ
 忍耐ノ力ヲ賜ヘト
 暫ク拷治ヲ爲シタル後、痛ク弱リシ受難者ヲ獄舎ニ下シタ
 ルニ彼レ尙ホ祈禱シテ止マサリシカ神ノ仁慈ニヨリテ身
 ノ創痕忽チ全治シタリ是ノ後又拷治セラレ、モゲオルギ
 イ泰然トシテ之ヲ忍ヒ受ケ神ノ力モ彼ヲ護リテ其創ヲ痊
 シケレハゲオルギイ其驚キ怪メル異教人等ニ向ヘ己ノ力
 チ固メシハ主ノ爲セシ所ニシテ妖術ノ爲ス所ニ非ルヲ詳

ニ示シテ曰ク主ヲ望ミ神ノ教ニ從フ者ハ豈苦刑ヲ畏怖ス
 ルアラシヤト
 帝問フテ曰ク神ノ教トハ如何ナル教ナルヤゲオルギイ答
 テ曰ク主ハ爾カ如キ者ノ奸惡ヲ預知シテ我等ニ身ヲ殺シ
 テ魂ヲ殺ス能ハサル者ヲ懼ル勿レト云ヒ玉ヘリ又主ハ其
 誠ヲ守ル者ニハ大ナル仁慈ヲ與ヘントテ約シ且主カ親シ
 爲シ賜フカ如キノ行事ヲ爲スノ力ヲ賜フベシト云ヒ賜ヘ
 リ帝又問テ曰ク行事トハ如何ナル事ツゲオルギイ曰クハ
 リストスカ病者ヲ痊シ死者ヲ復活シ替者ニ視ルヲ得セシ
 メ聳者ニ聽官ヲ復シ賜フ等ノ事ナリト

此處ニ在リシ巫祝等ゲオルギイノ言ヲ聞クヤ直ニ其日ニ
 死セシ者ヲ復活セシメンコトヲ促セシカハゲオルギイ暫シ
 ノ間祈禱シ主ノ名ニヨリテ其死者ヲ復活セシメタリ然レ
 ト帝ハ此ノ奇蹟ヲ見テ益々怒リ再ヒ致命者ヲ獄舎ニ下シ
 死刑ノ宣告ヲ爲スマテ之ヲ出スコトヲ禁シタリ
 此ノ時衆人番卒ニ賂フテゲオルギイノ獄舎ヲ訪ヒ彼レノ
 教訓ヲ請ヒシカハゲオルギイ眞神ノコトヲ教ヘ偶像ヲ棄ル
 コトヲ論シ多クノ異教人ヲシテハリストスニ歸セシメ且獄
 舎ノ中ニ病者ヲ携ヘ來ル者アレハゲオルギイ祈禱シテ之
 ナ癒シタリ傳ヘ云フ一ノ貧シキ農夫アリ一ノ水牛ヲ喪フ

テ今ハ耕作スルヲ能ハス一日ゲオルギイヲ訪ヒシカゲオ
 ルギイ之ヲ視テ惻隱ノ心ヲ起シ彼ニ謂テ曰ク我カ兄弟ヨ
 爾ノ家ニ歸ルヘシ爾ノ死牛已ニ甦生セリト農夫聖者ノ言
 ナ信シ直ニ家ニ歸リシニ水牛果ノ舊ノ如ク甦生シタリシ
 カハ農夫ハ是ヨリ眞神ヲ信シ現ハニ己ノ信ヲ表ハシ遂ニ
 死刑ニ處セラレタリ是ニ因リテ聖大致命者ノ祈禱ハ家畜
 ノ災難ヲ防キ護ルト稱セラレ今ニ至ル迄聖ゲオルギイノ
 祭日ニ家畜ヲ野ニ放ツノ例存セリ
 斯テゲオルギイ死刑ノ宣告アリシカ其刑ニ遭ントスルノ
 前夜救主彼ニ現レテ之ヲ慰藉シ其氣ヲ屬マシ天ノ福樂ヲ

與ルヲ約シ玉ヒテ大ニ彼ノ心ヲ慰メタリ或日ゲオルギイ
 獄卒ニ請フテ日夜獄門ノ傍ニ待チ居リシ一人ノ老僕ヲ召
 ヒタリ此ノ老僕ハ今圖ラズモ舊主ニ逢フヲ得テ悲歎腸
 チ斷チ流涙シテゲオルギイノ足下ニ伏シケレバゲオルギ
 イ之ヲ慰藉シテ其曾テ之ニ命セシ如ク其財産ヲ所置スル
 チ囑シテ遂ニ永訣ヲ爲セシトゾ
 ゲオルギイヲシテハリストスヨリ反離セシメント欲シ若
 シ其信仰ヲ棄テハ珍寶高爵ヲ賜フヲ約ノ之ヲ試ミタルニ
 ゲオルギイ之ニ應ゼズシテ「アポロン」ノ祠ニ往カンコトヲ
 請ヒケレバ帝之ヲ聞イテ心竊ニ喜ヒタリゲオルギイ邪神

ノ殿ニ至リ群衆ノ中ニ立テ異教ノ偽ニシテ虚キヲ證シ
 而シテ祈禱ノ力ヲ以テ諸ノ偶像ヲ破毀シタリ皇后アレキサ
 ノトテ邪神ノ殿ニ於テ有リシ次第ヲ聞キ今ハ其信仰ヲ人
 前ニ隱ス能ハズ直ニ邪神ノ殿ニ詣リ高聲ニ呼テゲオルギ
 イノ神ヨ我ヲ憐レミ賜ヘ爾眞實ニシテ全能ナル神ナレハ
 ナリト謂ヒツ、致命者ノ足下ニ俯伏シタリ
 帝是ヲ見テ彌々震怒シ皇后ヲモ死刑ニ行ントシテゲオル
 ギイト共ニ刑場ニ引カシメタリ此ノ時皇后天ヲ仰キ口ニ
 祈禱ヲ唱ヘツ、刑場ニ赴キタリシカ路次大ニ疲レシカハ
 兵士ニ請フテ暫ク身ヲ路傍ノ壁ニ倚セテ憩ヒシカ忽チ魂

ヲ神ニ復歸シケレハゾオルギイハ皇后ノ斯ル安然タル終
 焉ヲ見テ神ヲ讚揚シツ、刑場ニ至リ泰然トシテ頭ヲ白刃
 ノ下ニ伸シ遂ニ刎首セラレタリ
 聖大致命者レオルギイノ肖像ハ多ク白馬ニ乘リ鎗ヲ携ヘ
 妖蛇ヲ撃ツノ形ヲ畫ク是ハ左ノ傳ニ原因セルナリ
 傳ヘ云フ聖大致命者ヲ埋葬セシ地ヨリ程遠カラサルリツ
 ン山ノ麓ナルウイリタ城ノ近傍ニ湖水アリ妖蛇屢々現出シ
 毒氣ヲ吐キ空氣ヲ汚シテ人畜ヲ惱マセシカハ此ノ地ノ人
 ヲ大ニ之ヲ愛ヒシカト其避クヘキ方ヲ知ラス且固ヨリ異
 教ノ徒ナレハ一ノ巫祝ニ就イテ此ノ害ヲ免カルヘキ道ヲ

求メシニ巫祝曰ク每家輪番ニ子女ノ中一人ヲ蛇ニ投シ與
 フヘシト居民此ノ害ヲ防クノ好手段モアラサレハ遂ニ巫
 祝ノ言ニ從ヒ日々子女ヲ犠牲トシ湖水ノ岸ニ送リテ之ヲ
 蛇ニ食ハシメタリ此ノ輪番遂ニワイリヌ王ノ一女ニ及ヒシ
 カハ王家ノ悲歎言フヘカラサルモ止ムヲ得サレバ王女悲
 歎泣哭シツ、湖邊ニ至リ戰慄シテ唯死ヲ待ツノ外他事ナ
 カリシカ忽然トシテ白馬ニ跨リ鎗ヲ横ヘ身ヨリ光ヲ放テ
 ル一少年現出セリ此大致命者ゲオルギイナリ
 聖大致命者ゲオルギイ王女ニ向ヒ問テ曰ク爾何故ニ泣哭
 セルヤ

王女答テ曰ク温和ナル少年ヨ速ニ此處ヲ去レ我ト共ニ滅
 ブル勿レト且詳ニ妖蛇ノイナテ物語リタリ
 少年曰ク王女ヨ畏怖スルコト勿レ我レ今眞神ノ名ニヨリテ
 爾ヲ妖怪ヨリ救ハント
 王女曰ク温和ナル兵士ヨ爾自ラ滅フル勿レ我ハ既ニ死ス
 ヘキ者ト定メラル、者ナレハ又何ヲ悲マン爾我ヲ救ハン
 ト欲シテ爾反テ自ラ滅フルコト勿レト
 王女ノ言未タ終ラサルニ妖蛇已ニ湖水ヨリ出テ漸ク王女
 ノ傍ニ近ツキシカハ王女聲ヲ擧テ通レ、ヨト呼ハリタレ能
 神ノ兵士ハ身ニ十字架ヲ齎イテ聖三者ノ佑助ヲ請ヒ進テ

妖蛇ノ前ニ至リ一鎗ノ下ニ之ヲ刺シ殺シ而シテ王女ニ命シ
 其帶ヲ解キ妖蛇ヲ縛リテ之ヲ城中ニ牽キ歸ラシム王女命
 ノ如クニシテ城中ニ歸リシカハ城民群集相賀シ烈火ニ投
 シテ之ヲ燒尽シテ灰ト爲シ是ヨリシテ城中ノ民皆ハリス
 トス大敵ニ歸シタリ斯ク聖ゲオルギイカ妖蛇ニ勝チタルト苦
 難ノ中ニ在リテ勇ミタルヲ以テ凱旋者ト稱セラレ又兵士
 ノ守護者トシテ尊ハレタリ
 吾カ正教會ハ聖ゲオルギイテ讚頌シ歌フテ曰ク俘者ノ救
 援者貧民ノ守護者柔弱者ノ醫者諸王ノ護衛士凱旋ノ大致
 命者ヨ我等カ魂ノ救ハル、トナハリストス神ニ祈リ賜ヘ

ト
 ○聖致命者、將軍サウワ及ヒ兵士七十人ノ紀念六日
 ゴトノ人、致命者、聖サウワハ第三世代ニ當リロマ帝アウレ
 リアンニ仕ヘテ將軍タリサウワハハリストス教ヲ信シ熱
 心敬虔ナル信徒ニシテ人トナリ慈善ノ心深ク常ニ貧者ヲ
 助ケ宗教ノ爲メニ獄舎ニ繋カル、「ハリストステアノン」ヲ屢々
 訪ヒ慰メ之ヲ諭シテ忍耐堅固ナラシメタリ
 アウレリアン帝、將軍サウワカ正教ノ信徒ナルヲ覺リ引
 致シテ之ヲ詰問セシニサウワ堅ク正教ヲ承認シ自ヲ將軍
 ノ記章ヲ解キ之ヲ擲テハリストスノ聖名ノ爲ニ苦ヲ受ン

トスルノ決心ヲ表ハセシカハ帝怒リテ殘酷ナル拷治ヲ爲シ痛ク之ヲ鞭チ烈火ヲ以テ其創ヲ燒キ遂ニ大釜ニ熱松液ヲ盛リテ之ニ投シタリ然レト主神ハ己ノ忠臣ナル奉事者ヲ守護セシユヘ聖サウワハ天ヨリスルノ威力ヲ以テ堅メラレ勇マシクモ諸難ヲ忍ヒ受テ毫モ害ヲ受ルコナク釜中ヨリ出テシカハ此所ニアリシ七十人ノ兵士等此ノ奇跡ヲ見テ豁然トシテ大ニ悟リ正教ヲ信シ驥テ高聲ニ主イエススハリストスヲ承認セシカハ帝大ニ怒リテ彼等ヲ死刑ニ定メ彼等皆大ニ悦テ正教ノ爲ニ刎首セラレタリ

斯クテ聖致命者サウワヲ獄舎ニ繫キシカ夜中サウワ祈禱

ヲ爲ス時、主ハリストス自ラ顯レテ聖サウワヲ堅メ賜ヒケレハ彼レ忽チ神ノ力ヲ得、最ト怖ルヘキ苦難ヲ忍ヒ受ケ後河中ニ投セラレテ致命セリ

○聖使徒福音者マルクノ傳七日

福音者聖マルクハ七十使徒ノ一人ニシテイウレイ民レワイノ支族ヨリ出タリ或ハ云フ聖マルクハワルナリト共ニ四方ニ傳道シテマルクト復稱セシイオアン其人ナリト又他ノ人ノ説ニハ此レ全ク別人ナリト然ルニ聖使徒ペートルノ書札(前書三五)中ニマルクヲ己ノ子ト稱スルヲ視レハ是レ全ク使徒ペートルノ弟子ナルヲ疑ナシ彼レ使徒ペートル

ルニ從フテ羅馬ニ至リ主ハリストスノ昇天後十二年ヲ經テ福音書ヲ錄セリ視ヨ聖福音者ハ使徒ペートルカ主ヲ捨テシヲ詳述スレモペートルノ殊ニ熱心ニシテ救主ヲ愛セルヲ至リテハ殆ト記載スルヲナキテ此ニヨリテ之ヲ視レハ聖マルクハ其福音書ヲ著スニ當リハリストス教ノ謙遜ヲ体シ己ノ名譽ヲ顯ハスヲ欲セサリシ使徒ペートルノ導ヒキテ以テ之ヲ錄セルヲ明カナリ

聖使徒ペートルハ聖マルクヲ遣ハシテ四方ニ傳道セシメケレハマルクハアドリア海ニ程近キ一都會アシワイヤ城ニ教會ヲ設立セリ又屢々エジペトニ至リ第一世代ノ時最モ

著名ナルアレキサンドリヤ城ニ於テ初テ主ハリストスヲ信セシ者ハ聖マルクカ主ノ名ニ依テ其重傷ヲ癒セシ職工アナコヤニシテ其後マルク、アナコヤヲ立テ主教ト爲セリ然ルニ異教人ハ正教ノ盛ニ蔓延セルヲ見テ大ニ怒リテマルクヲアレキサンドリヤヨリ逐ヒ出セシ故聖マルクアレキサンドリヤヲ去リテ再ヒ羅馬ニ至リ使徒ペートルカ致命セシ後又エジペトニ至リアレキザンドリヤノ學校ヲ設立シ此ノ學校ハ後幾シモナウシテ其名甚ク著ルシキモノトナレリ其後遠シアフリカノ内地ニ入リリワイヤキリナイ

クノ諸城ニ周遊シ到ル處銳意ニ神ノ聖言ヲ傳ヘケレハ正

教忽チ蔓延セリ其弟子ノアフリカニ在リ敬虔コシテ聖行
 アルヲ以テ其名藉々タル者最ト多カリキ
 聖使徒マルクハ聖使徒パウエルカ捕ハレテ羅馬ニ至リシ時
 ノ如キハ大ニ其傳道ヲ助ケタリ而シテ其致命セシアレキサ
 ンドリヤニ於テハ其使徒タル最後ノ功勞尤モ著ルシ蓋彼
 レ初メ一ノ海岸ニ正教會ノ聖堂ヲ建シカハエギプト人正
 教信徒等カ國中ニ蔓延センヲ恐レ相議シテ福音者ヲ殺
 サントシタルニ因テナリ
 斯クテエギプト人ハ邪神セラピスノ祭日ニ於テ此ノ惡事
 チ履行スルノ日ト爲シ此ノ祭日ハ五月五日ニシテ會々主

日ニ當レリ聖マルクハ其前夜迄尙ホ民ニ邪神ノ祭典ニ與
 カルノ罪ナルヲ論シテ之ニ與カルヲナカラシメ而シテ堂
 中ニアリテ祈禱ヲ爲ス時、異教人等聖堂ニ乱入シ聖マルク
 チ引キ出シ縛シテ市城ヲ引シ回シ且、大ニ叫ヒツ、彼ヲ鞭
 ウチケレハ流血淋漓石橋ノ上ニ滴リシモ聖マルク尙祈禱
 シテ止マス幾回トナシ呼テ曰ク我カ救主ヨ爾ニ感謝ス爾
 我チシテ爾ノ爲ニ苦難ヲ受ルニ堪ル者トナセハナリト薄
 暮ニ至リ異教人等聖使徒ヲ獄舎ニ繋キシカ夜間神使彼ニ
 現ハレテ曰ク其名ハ他ノ使徒等ト共ニ生命ノ冊ニ記載セ
 ラレ全地ノ民將ニ其記憶ヲ行ハントスト次テ救主自ラ之

ニ現ハレテ曰ク我カ福音者ヨ安カレト
 次日ニ至リ再ヒ拷治セラル時聖使徒マルク祈禱シテ止マ
 ス終ニ大呼シテ曰ク我カ靈ヲ神ノ手ニ付セント遂ニ安然
 トシテ主ニ復歸ヒシカハ此ノ地ノ「ハリストステアニン」等聖者
 ノ遺體ヲ彼カ會テ造營セシ聖堂ノ下ニ葬リタリ後、其不朽
 体ノ上ニ於テ久シキノ間アレキサンドリヤノ總主教ヲ撰
 舉セリト云フ
 茲ニ幾多ノ歲月ヲ經テ聖使徒マルクノ不朽体ヲ「ウエチヤ
 城ニ遷シ莊嚴美麗ナル會堂ヲ造營シテ之ヲ安置セリ今尙
 ホ此ノ地ニ遊フ者其境内ノ風景絶奇ニシテ聖堂ノ莊嚴美

麗ナルニ驚カサル者ナシト

○アマシヤ城ノ主教聖ワシリイノ紀念八日

昔羅馬國ニ六帝并ニ起テ國ヲ争ヒ内訌止ムナク數年戦争
 セシ後第四世代ノ初ニ至リ羅馬國ハ遂ニコンスタンティン
 及ヒリキニイニ二帝ノ管下ニ歸セリリキニイ帝ハコンスタ
 ンティン帝ノ妹コンスタンチヤヲ娶リ一時兩帝尤モ親睦シ
 加之ナラスリキニイ帝ハコンスタンティン帝ノ歡心ヲ得ン
 ト欲シ相共ニ詔ヲ出シテ凡テ信仰ノ自由ヲ允准シ異教ヨ
 リハリストス教ニ轉依スルヲ禁セサリシ然レトロキニイ
 帝ノ政令暴戻ニシテ後遂ニ「ハリストステアニン」ヲ惡ミ大ニ己

ノ管下ニ居ル「ハリステアノン」ヲ窘逐セリ
 ココモミデヤ城ノコンスタンチヤ后ノ宮中ニグラヒラト稱
 スル「ハリステアノン」ナル少女アリ人ト爲リ虔敬ニシテ貞
 ナ守リケレハ大ニ皇后ノ寵眷ヲ受ケタリリキニイ帝グラ
 ヒラカ容色ノ美ナルヲ見テ之ヲ愛シ渥恩ヲ以テ其貞ヲ破
 ラント欲シ乃チ一侍臣ヲ遣ハシテグラヒラニ告グルニ皇
 后ヲ遠サケグラヒラヲ娶ントスル意ヲ以テセリグラヒラ
 之ヲ聞テ大ニ驚キ且大ナル耻辱ト爲シ泣テ帝ノ不義ナル
 一チ皇后コンスタンチヤニ訴ヘテ其防護ヲ請ヘリ此ニ於
 テコンスタンチヤ后グラヒラヲキニイノ毒手ヨリ助ケ

ント欲シ乃グラヒラ危篤ノ病ニカ、リ遂ニ死セリト聲言
 シテ深ク之ヲ宮中ニ隠シリキニイカ戀情ノ稍衰ルヲ待チ
 グラヒラヲニコミデヤヨリ避ケシメント欲シ因チ多ク金
 銀ヲ與ヘ忠義ナル侍臣ヲシテ之ニ從ハシメ而ソグラヒラ
 チ男装シテ竊ニ宮中ヲ脱セシメタリ
 斯クテグラヒラ四方ニ周遊シポント郡アマシヤ城ニ至リ
 シニ此ノ地ノ人クウインテイナル者グラヒラ及ヒ其同行者
 ノ「ハリステアノン」ナル一チ知リ己ノ家ニ招イテ厚ク之ヲ
 饗シ永ク己ノ家ニ留マラン一チ請ヒ而ソ城中ニ居ル「ハリ
 ステアノン」及ヒ敬虔ニシテ聖行アルヲ以テ衆人ニ敬戴セ

ラル、主教ワシリイノヲテ語レリ其後クウインテイ周遊者ト與ニ主教ワシリイノ家ヲ訪ヒシカワシリイ之ト談話シ其生國ト身分トヲ問フテグラヒラカ宮中ヲ脱走セシヲ知リ因テ知己ノ外猥ニ他人ニ遭フナカラシテ勸メタリ蓋ワシリイハ帝若シグラヒラノ居所ヲ知ラハ獨リグラヒラノミナラス城中ノ「ハリスデアニン」等モ亦皆帝ノ怒ニ觸レテ再ヒ窘逐ノ起ラシテ恐ル、ユヘナリ

主教ワシリイノ前見ハ不幸ニモ相應セリ此ノ時會々アマシヤ城ニ始テ聖堂ヲ建築スルノ時ナリシカハグラヒラハ僅カタリトモ此ノ工事ヲ助ケント欲シ曾テニコミヂヤ城

ヲ出テシ時コンスタンチヤ后ヨリ賜ハル所ノ金銀ヲ悉ク主教ワシリイノ手ニ附加之ラス書ヲ以テコンスタンチヤ后ニ己レノ居所ヲ報シ且聖堂新築ノ爲ニ義捐アラシメテ請ヒシカコンスタンチヤ后其書ヲ得テ大ニ喜ヒ夥多ノ金銀ヲ送り且親ク書ヲ主教ワシリイニ送リテグラヒラノヲテ依托セシニ因テナリ

皇后ノ親書ノ未タ主教ノ手ニ落チサルノ前、曾テリキコイノ内命ヲ以テグラヒラノ許ニ使セル者カ覺知シテ具サニ帝ニ奏シケレハ帝直チニ人ヲアマシヤ城ニ遣ハシテ主教及ヒグラヒラチニコミヂヤニ招致セシメタリ然レト帝ノ

惡意ハ半ハ成就セサリキ蓋シラヒラハ既ニ死セハナリ斯
 シテワシリイ獨リ捕ハレテニコミデイヤ城ニ護送セラレシ
 カ主教ノ常ニ愛セル補祭バカペニイ及フエオラムノ二人之
 ニ隨行セリ
 數日ヲ經テニコミデイヤ城ニ至リワシリイ直ニ獄舎ニ幽セ
 テレシカ二人ノ補祭ハ「ハリステアニソ」エリビデイホルナ
 ル者ノ家ニ宿セリエルヒデイホル素ヨリ獄卒ヲ知ルユヘ彼
 ニ依頼シテ主教ヲ訪フヲ許サレニ補祭ト屢々ワシリイ
 ナ訪ヒ日夜或ハ祈禱シ或ハ讚美歌ヲ唱ヘ或ハ靈益ナル談
 話ヲ爲シテ日ヲ送レリ

斯クテ將ニ不義ノ裁判ヲ受ケントスルノ前夜ワシリイ急
 ニ彼ノ三人ヲ招ヒテ聖詠ヲ歌ヒ祈禱ヲ爲シ且ニ及ヒ祈禱
 終リテワシリイ之ニ謂テ曰ク兄弟ヨ我等ノ苦難既ニ近ツ
 ケリ爾我カ將ニ受ケントスル裁判ノ爲ニ懼レス愛ヒス毅
 然撓マスシテ教ヲ守リ而シテ爾ノ靈目ヲ擧テ我等ヲ救ヒ玉
 フノ主ニ向テ神ヲ注視セヨ彼レ能ク悲嘆ヲ以テ歡樂トナ
 シ勞苦ヲ以テ安息ト爲サン我カ友ヨ前夜主親シク我ニ現
 ハレ我カ將ニ受ケントスルノ終焉ト主ノ將ニ己ノ僕タル
 我ニ賜ハントスルノ光榮ヲ示セルヲ知ル爾等悲哀スルコ
 ナク還リテ兄弟等ヲ堅定セヨ又エウテイヒイテ撰テ主教ト

爲セ是レ我カ塵ナル肉体ヲ爾等ニ送り還サントスル所ノ
 主ノ我ニ命スル所ナリトワシリイ又ユソビディボルニ特ニ
 兄弟(二補祭)ヲ善遇センヲ請ヒ終リ祝福シテ悲哀セルニ
 補祭ニ別レタリ
 斯クテリキニイ帝ハ主教ヲ裁判セントシ其法庭ニ至ルヤ
 直ニ嚴重ニグラヒヲカアマシヤ城ニ居ルヲ告ケスシテ之
 チ隱セシヲ詰問セリ然レト主教ハ侃々トシテ其答解ヲ
 ナセシカハリキロイ帝再ヒ親カラ彼ヲ裁判スルヲ欲セ
 スシテ獄舎ニ繫キタリ
 是ノ後チ一官吏玉命ヲ受ケテ屢々獄舎ニ來リ若シハリス

ト大ニ棄テハ其罪ヲ赦サント論シタレト終ニワシリイノ
 堅心ヲ挫ク能ハス彼レ帝ニ云ハシメテ曰ク若シ爾ノ全國
 チ擧テ我ニ賜フモ我カ眞神ヲ棄テ、失フ所ノ者ヲ贖フ
 能ハス爾能ク我カ言ヲ納レテ罪ノ赦ヲ神ニ祈ルヘシ我等
 ノ主ハ至慈至仁ナリ必ス爾ノ悔改ヲ嘉シ納レントト
 帝此ノ言ヲ聞イテ益々怒リ侍臣ヲ遣ハシテ主教ニ云ハシ
 メテ曰ク爾我カ諸神ヲ拜スハシ然ラスンハ爾ヲ刎首シテ
 海中ニ投セントワシリイ從容トシテ侍臣ノ言ヲ聞キ大ニ
 喜ヒ呼テ曰ク我ハ我カ主神ニ奉事シ其誠命ヲ守ラント欲
 スル者也爾意ニ任セテ我ヲ所置セヨ我レ意ヲ決シテ我カ

主ハリストスノ爲ニ千辛萬苦ヲ受ケントス我カ喘々タル
 生命ノ有ラン限リハ敢テ我カ造物主ニ背カサルナリト此
 ニ於テ酷クワシリイテ鞭ウチタルニ彼レ聖使徒ノ言ヲ記
 憶シテ曰ク悲嘆、幽囚、苦難、烈火、死ニ至ルモ能ク我ヲハリス
 トスノ愛ヨリ離ス能ハス」ト
 斯クテ主教ハ衆「ハリストス」ニ圍繞セラレテ刑場ニ赴
 キ至ルニ及テ跪イテ己ノ救贖ノ爲メ衆「ハリストス」ノ
 爲メ及ヒ己ニ敵スル者ノ爲ニ祈リ且主ニ異教ヲ滅シ「ハリ
 ステアコン」ヲ護リ及ヒ己レ堅ク信仰ヲ守リテ「ハリストス
 ノ誠命」ヲ行ハシメ玉ハン「ヲ」祈リ終リテ「ハリストス」

等ヲ抱キ福ヲ降シ次テ劊手ニ謂テ曰ク我カ友ヨ爾命セラ
 ルルノ職ヲ行ヘヨ」ト此ニ於テ聖主教ヲ劊首シ其首ト休ト
 チ海中ニ投シタリシカ未タ幾クナラスシテエリビ「ダイホル
 及ヒ二輔祭、神使ノ告ニヨリテ主教ノ遺骨ノ在ル所ヲ知り
 之ヲシ「ノ」ア「ノ」海濱ヨリ探リ得、アマ「シヤ」城ニ遷シテ新ニ造
 營セル聖堂ノ内ニ安置セリト云フ

○ペルムノ主教聖ステファンノ傳同日

現今ノ露國ノペルム縣及ヒ其四隣ハ昔時、露國ニ於テ総シ
 テゼリ人ト稱セシ種々ノ民ノ住セシ所ナリ而シテ此ノゼリ
 人ノ風俗如何ヲ詳ニ知ル者ナク世人云テ誅僞多キ蠻人ト

爲セリ此ノ民ハ實ニ眞神ヲ知ラス善惡ノ二神ヲ信シテ之
 ニ獻祭セリセリ人固ヨリ露國政府ニ租稅ヲ納ムルト雖モ
 第十四世代ノ比迄ハ人ノ彼等ヲ文明ノ域ニ誘導スル者ナ
 シ蓋當時、露國ハタタル人ノ厄ヲ受テ大ニ困難ヲ極メシ時
 ナリ此ノ時一修士ステファンナル者アリ彼ノゼリ人カ眞ノ
 神ヲ知ラサルヲ深ク憐レミペルムノ地ヲ教化スルノ聖業
 ナ以テ己ノ任ト爲シタリ
 聖ステファンハ大約ソ降生一千三百四十年ノ頃オロゴドス
 ク縣ノ一都會ウステヨグニ生レ其父シメチンハ此ノ地ノ首
 堂ノ堂役者タリ傳ヘ云フウステヨグノ奇蹟行爲者、聖翁アロ

ピイ或時マリヤト名ツクル三歳ノ童女ニ遇ヒ其足下ニ俯
 伏シテ曰ク視ヨ神ノ奉事者中ニ大ナル者ト爲ラントスル
 ペルムノ主教ステファンノ母トナル者來レリト後此ノ童女、
 妙齡ニ至リ果ソ敬虔ナル堂役者シメオンニ嫁シテ實ニス
 テファンノ母ト爲レリ
 ステファン幼ニシテ學ヲ嗜ミ好テ聖書ヲ讀ミ又交易ノ爲メ
 ウステヨグニ來ル所ノゼリ人ト交リテ其土音ヲ學ヒ遂ニ能
 ク之ニ通セリ長スルニ及テ修士ト爲リ一生ヲ風塵外ニ送
 ラント欲シロストウ城ニ往キ神學者聖グリゴリイノ修道
 院ニ入リシカ院中ノ兄弟等ステファンノ虔敬ニシテ日夜聖

書ヲ探究シ或ハ祈禱ヲ爲シ或ハ聖書ヲ贖寫スルヲ見テ驚
カサレ者ナシ未タ幾クナラスシテ輔祭トナリ修士度生ノ
困苦ナルニモ係ハラス常ニ眞神ヲ知ラサル不幸ノ民ノ
ヲ思念シ遂ニ志ヲ決シテゼリノ蠻人ニ神ノ律法ヲ傳ヘン
トセリステフアンゼリ語ニ通セシ故、新ニ文字ヲ作り聖書若
干ヲゼリ語ニ譯セントセシカ其誤謬ナカラシカ爲メニグ
レチヤ語ヲ學ヒ日夜翻譯ニ從事シ既ニ畢リテモスクワ城
ニ至リ神ノ聖言ヲ傳ルカ爲メ府主教ノ降福ヲ受ントセリ
聖ステファン未タモスクワニ到着セサル前、府主教聖アレキ
セイ世ヲ逝リケレハ路ヲ轉シテコロメンノ主教ケラシム

ノ許ニ到リ具サニ己ノ志ヲ告ケ曰ク主宰ヨ我レ神ノ佑ニ
依リペルムノ地ニ往キ彼所ニ居ル異教人ヲ教化シ之ニ洗
禮ヲ授ケント欲ス願クハ福ヲ我ニ降セ若シ神我ヲ佑ケナ
ハ彼等ヲ轉依シテ主ハリストスニ就カシメン若シ能ハス
ンハ主ハリストスノ爲メ其聖言ノ爲ニ一命ヲ捨テ願クハ
我カ爲メ主ノ我カ踵ヲ廻ラシ安然トシテ往テ異教ノ地ニ
傳道スルヲ祈レヨトケラシム、ステフアンニ降福シ立テ、
司祭ト爲シ且聖堂ヲ建ルカ爲メ要スル所ノ材料ト聖機密
ヲ行フカ爲メ用ル所ノ諸品ヲ與ヘケレハステフアンハ神ニ
佑テ祈リツ、ペルムノ地ニ赴ケリ

六十六
ステファンガ己ヲ犠牲トナシテ自ラ擇ヒシ事業ハ甚、危難ノ
事ナリ蓋ゼリ人ハ凡ソモスクワヨリ來ル者ヲ善遇セス何
トナレハモスクワ大侯カ遣ハス官吏等常ニ暴戻ナル所行、
多ケレハナリ加之ナラス異教ノ神官等新ニ正教ノ此ノ地
ニ入ルヲ見テ民ニ上タルノ權ト其得ル所ノ獻饗トヲ失ハ
ンコテ恐レ大ニステファンヲ疾ミゼリ人ヲ煽動シテステファ
ンニ敵セシムレハナリ
然レト何人モ能ク熱切ニ己ノ任スル所ノ聖業ヲ行ヒ毫モ
危難ヲ怖レス生命ヲモ顧ミサル所ノ修士ヲ制止スル能ハ
サリキ

六十一
ゼリ人ハステファンノ傳道セルヲ見テ己レノ神法ヲ毀ル者
ト爲シ彼ヲ烙殺セントセシコト數々ナレ凡熱信ニシテ神ト
人トヲ愛セルステファンハ唯望ヲ失ハサルノミナラス益々
進ンテ異教人ニ向ヒ神ノ律法ヲ講明シ如何ナル苦難ヲモ
怖ル、コトナクゼリ人ヲ永世ノ救ニ招キタリスステファン曰ク
兄弟ヨ人ノ子ヨ信仰ト痛悔トヲ以テ萬有ノ主宰ナル神ニ
轉依シ聖洗ノ機密ヲ以テ罪惡ヨリ潔ウセラレテ生活スル
カ爲ニ爾ノ魂ヲ以テセヨ我カ主神ハ我ニ爾等ノ料懲ヲ怖
ル、勿レ且身ヲ殺スモ魂ヲ殺ス能ハサレハ死モ亦怖ル、
勿レト命シ玉ヘリト

ゼリ人ハ偶像若クハ靈ナキ物ヲ崇拜スト雖ハ斯ノ諸神ノ
 上ニ禽物ヲ造成シタル全能ノ神アルヲ信ス然レト之ニ奉
 事スルニ自ラ堪サル者ト爲セリステフアン是ノ不明ナル古
 傳ヲ以テハリストス教ヲゼリ人ニ闡明講説スルノ好機會
 ト爲シ彼等ノ所謂全能ノ神トハ則チステファンカ傳フル所
 ノ唯一ナル眞神ニシテ彼レノ外別ニ神タル者ナキヲゼリ
 人ノ悟ランコトヲ勉メケレハ主ハステファンカ銳意ノ傳道ニ
 福ヲ降シ夥多ノ異教人、正教ニ轉依シテ聖洗ヲ受シカハス
 テフアン邑中ニ十字架ト一小堂ヲ建テ益々深ク内地ニ入り
 百挫不撓ノ精神ヲ以テ神ノ言ヲ傳ヘシニ舊染最モ甚シキ

異教人ハステファンノ説教ヲ聞クニ避クルカ爲メ寂寞ナル
 深森ニ隠レシカハステファン追跡シテ彼等ヲ救ノ道ニ歸セ
 シメントセリ
 斯クテステファン一村落ニ至リゼリ人カ祠レル偶像ノ一大
 堂ヲ燒キシカハ住民大ニ騒動シ集リ來リステファンヲ捕ヘ
 テ之ヲ殺サントシケルモステファン之ヲ防カス唯聲ヲ高ウ
 シテ神ニ異教人ヲ轉依セシメントチ祈リ從容トシテ死ヲ
 待チタリシカハ異教人等ハ彼カ泰然トシテ毫モ恐怖ノ色
 ナキヲ見テ大ニ驚キタリステファン罵詈ノ聲少シク止ミシ
 チ以テ彼等ニ向ヒ徐々説キ出シテ曰ク爾等僞神ヲ拜スル

ナ止メニ蓋諸神ハ皆ナ感情ナキ偶像ニシテ爾等ノ手ニテ
 作リシ者ニアラスヤ爾等我レ「ハリスデアニン」ノ信スル所
 ノ唯一ナル眞神ヲ識認シテ之ニ轉依セヨ彼レ天ヲ堅メ地
 ナ造リ己ノ造物ヲ守リ且全世界ヲ照管セリ彼レ見サル所
 ナク聞カル所ナウシテ萬人ノ需ムル所ノ者悉ク之ヲ與ヘ
 玉ヘリ彼ハ萬民ノ救主ナリベルムノ人々ヨ我カ言ヲ聽ケ
 蓋我ハ善ヲ爾等ニ望ムナリ爾等己ノ智ヲ開キ靈目ヲ明ニ
 シテ偶像邪神ヲ棄テ総テ爾等ノ妄信ヲ去レ爾等誠ニ我カ
 傳フル天國ノ道ヲ信シテ洗禮ヲ受ケハ必ク救贖セラレ若
 シ信セサレハ罪ニ定メラレテ永苦ヲ受ケント

斯クステフンハ謙遜ノ親愛ヲ以テ説キ出セシニヨリ住民
 等大ニ鎮靜セリ素トゼリ人其粗暴ナル行アルニモ係ハラ
 ス旅客ヲ善遇スルノ風ヲ堅ク守リ自ラ其爭鬪ヲ好マザル
 ノ旅客ヲ犯スヲ以テ耻辱トナシ且信シテ洗禮ヲ受クル者
 モ多カリキ

聖ステフン又甚タ危険ナル事變ニ遇ヘリ蓋ウエマ河邊ノ高
 山ニ月桂樹アリゼリ人之ヲ尊ヒテ神木ト爲シ且樹下ニ邪
 神ノ祠アルヲ以テ土民來リテ之ニ獻祭シ而シテ神官ノ神託
 ナ信シ將來ノ事大小トナク其方向ヲ決シ而シテ神官等ハ民
 カ燔祭ノ爲ニ獻シタル諸畜ノ毛皮ヲ利スルカ爲メ力ヲ尽

シテゼリ人ヲシテ永ク之ヲ信セシメントスルヲ以テナリ
ステファン土人ノ屢々神木ノ下ニ群集スルヲ知り其側ニ
庵ヲ造リテ此ニ居リ異教人等ニ異ノ道ヲ傳ヘントセリス
テファンノ言能クゼリ人ヲ反正スル事多カリシカハ神官等
ハ其傳道ノ大ニ進歩シ正教ノ忽チ蔓延セルヲ見テ大ニ驚
キ人ヲ遠近ニ遣ハシテ之ヲ報シ而シテ精神ヲ保護スルカ爲
ニ人々ヲ募集セシカハ異教ノ信徒等千餘人舟ヲウマ河ニ
浮ヘ大ニ號呼シテステファンノ庵ヲ圍ミタレト神ハ忠義ナ
ル己ノ奉事者ヲ護リテ蠻民ノ騷動ヲ靜メ賜ヘリ世ニ傳フ
聖傳道者ヲ害セント謀リシ人民俄ニ明チ失ヒ誓言トナリ

シカステファンノ祈禱ニヨリテ明ク復スルヲ得タリト斯
クテ聖ステファンハ神ノ言ヲ傳フルニヨリテ大ニ民ノ敬戴
スル所トナリ而シテ眞理ヲ悟ル者モ亦多カリキステファン彼
等ノ助ニ因リ月桂樹ヲ伐リ神殿ヲ燒キ山上ヲ清メシトキ
ゼリ人卒先シテ偶像ヲ火ニ投シタリスステファン神殿ノ在リ
シ所ニ聖堂ヲ創造シテ福音堂ト名ケ次ニ使役者ガウリイ
ル及ミハイルノ聖堂ヲ造リ其傍ニ學舎ヲ營ミ自ラ兒童
ヲ教育シ且神ノ律法ヲ講セリ
聖ステファンハ謙遜温和ナルニヨリテ住民ノ敬愛日一日ニ
加ハリ住民其忍耐ノ強キニ驚イテ神常ニ彼ヲ佑ケ賜ヘリ

ト爲シテ曰ク我等彼ヲ嚇スニ死ヲ以テセルモ彼レ嘗、抵抗
セサルノミナラス我等ニ説クニ我等ノ救贖ノコト彼ノ稱
シテ天國ト爲セル永生ノコトヲ以テセリトセリノ神官等ハ
嘗供物ヲ貪リシノミナラス民ノ贈遺ヲモ受ケタレトステ
ファンハ凡テ贈遺ヲ退ケ一モ之ヲ受クルコトナカリケレハゼ
リ人等深クステファンノ清廉潔白ナルヲ賞嘆シテ曰ク是ノ
露國ヨリ來ルノ人ハ己ノ利ヲ顧ミスシテ唯我等ノ救贖ノ
爲ニ慮レリトアルトキステファンニ贈遺ヲ受ケサルノ故ヲ
問ヒシニステファン答テ曰ク吾カ師ナルハリストスノ使徒
ハ我ニ教フルニ自ラ勞シテ食ヲ求メ人ニ配慮セシムルコト

勿ラソテ以テセリト然ルニ人民ノステファンヲ敬戴スルコト
益々篤キニ由リテ神官等ステファンヲ嫌惡スルコト彌々深ク
神官ノ長タリシバマナル者ステファンニ抗抵セント欲シ人
民ヲ煽動シテ曰ク此ノロシヤ人ヲ棄テヨ視ヨ彼レ年尙ホ
少ニシテ我カ孫ノ如シ彼レ能ク何事ヲカ爲サンヤ且熱思
セヨ唯我等ヲ誅求スル税吏ヲ遣ハスノモスクワヨリ豈我
等ノ爲メニ利益ナル者來ルアラシヤト又バマハ人間ノ幸
福ヲ計リ之ヲ保守スルカ爲メニハ唯一ノ神ニ奉事センヨ
リハ多ク神ヲ祭ルニ若カス森羅万象ノ豐盛ナルハ皆諸神
ノ賜モノナリト説キタレト既ニ眞神ヲ信セシゼリ人等、之

ニ從カハスシテ曰ク我等ハステファンヲ棄テス我等ハ彼カ
 福音ノ言ト愛トニ心服ス何ソ再ヒ爾等ノ偶像邪神ヲ信ス
 ルヲ爲サンヤ
 此ニ於テパマ自カラステファント辨論セシモ遂ニステファン
 ニ論破セラレタリパマ又ステファンヲ衆民ノ目前ニ試ント
 欲シ大ニ人民ヲ會シテステファンニ迫リハリストス教ノ眞
 理ヲ証明センカ爲メ傷害ナク火中及ヒ氷上ヲ歩スヘキヲ
 以テセリスステファン曰ク神ハ人ニ自由ニ物ヲ使役スルノ力
 ナ與ヘザレド我ハハリストスノ聖名ノ爲ニ喜テ難ヲ受ク
 ヘシトパマ敢テステファンヲ試ミサリシカ人民大ニ騒動シ

テパマヲ殺サントセリスステファンゼリ人ヲ鎮制シテ曰ク主
 ハ我ヲ遣ハシ謙遜ヲ以テ福音ヲ傳ヘシム我レ仁慈ヲ以テ
 人ヲ懲人モ死ヲ以テ人ヲ懲サストパマ遂ニ再ヒ偽教以テ
 人民ヲ迷ハサ、ルヲヲ導フテ去レリ
 聖ステファン三年ノ間傳道ニ從事シ正教盛ニ蔓延セシカハ
 之ヲ聞キ來リテ其傳道ヲ助クル者アリ又教會ノ用度ヲ供
 スル者モ多カリキ
 ステファン聖堂ニ於テゼリ語ヲ以テ祈禱ヲ獻セシニ其儀式
 ノ嚴格ナルヲ以テ大ニ新信者ノ意ニ適シ且數人ノ同勞者
 ヲ得テ益熱切ニ傳道ニ從事セシカハ主ハリストスヲ信ス

ル者日一日ニ多キヲ加ヘタリ
 聖ステファンベルム地方ニ傳道シ七年ヲ經シ後モスシワニ
 至リベルム郡ニ主教ヲ立テシテ請ヘリ其モスシワニ至
 リタルハ降生一千三百八十三年ニシテ大侯アルミドリイト
 ンスキイカシリコウノ原野ニ於テ敵ト戰フテ大勝ヲ得シ
 時ニシテ府主教ビーメン大ニ異教人ノ新ニ主ニ歸シタル
 一ヲ喜テ之ヲ大侯ニ奏聞セリステファン府主教ニ同勞者ヲ
 遣ハサン一ヲ請ヒテ曰ク穡多クシテ工少シ今穡主ニ請フ
 工夫ヲ遣ハシテ傳道ニ從事スルニ堪ルノ我カ同勞者トナ
 ラシメヨト大侯及ヒ諸主教ノ同意ニ因リテ新設ノ主教部

ハ直ニステファンニ委任シテ多ク教會ノ諸品ヲ給シ大侯モ
 亦ベルムノ大主教及ヒ教會ノ爲ニ特恩ヲ以テ其用度ヲ給
 セリ

新任主教カ任所ニ赴クノ途次故郷ウステクニ至リシニ此
 地ノ人民恰モ使徒ヲ持スルカ如ク諸神品ハ聖旗ヲ建テ聖
 像ヲ捧ケ人民ハ盪ト餅トヲ捧ケテ最ト嚴カニ鐘聲ヲ相圖
 ニ皆出テ彼ヲ迎ヘタリ且人民ハ悅樂シテ新信者ヲ助クル
 ナ約シ貧人ハ聖堂ヲ建築スルカ爲メ自ヲ操作ノ業ヲ取ル
 テ請ヒシカハ聖ステファン父母ノ墓ト老翁プロコビイノ墓
 ニ謁シテ直ニ途ニ上リタリ

斯クテ新信者ナラセリ人ハ己ノ師ナル主教ノ安着ヲ見テ
 大ニ欣喜シ手ノ舞ヒ足ノ踐ム所ヲ知ラス出テ之ヲ迎ヘ其
 衣ニ接吻シ悦喜ノ極皆涕泣シタリ
 ステファンゼリニ至リ嘗テ神殿及ヒ月桂樹ノ在リシ所ニ造
 營セシ福音聖堂ヲ以テペルム主教部ノ主教座ノ聖堂ト爲
 シ新ニ修道院ヲ建テ教會ノ事務ヲ料理シ聖言ヲ傳ヘゼリ
 人等ニ治家ノ本分ヲ訓示シ不幸者ヲ慰藉シ貧者ニ濟施セ
 リ
 斯ノ聖ナル傳道者ハ三十年ノ日月ヲペルム教會ニ送り粉
 骨、碎身、誠心ヲ以テ衆人ノ爲ニ計リケレハ大ニ衆人ニ敬戴

セラレ若シ人不幸ニシテ禍ニ罹ルアレハ必ス行イテ之ヲ
 主教ニ謀リ或ハ爭フ事アレハ必ス主教ノ裁決ヲ請ヒケレ
 ハステファンモ自ラ無辜ヲ伸理シ貧者ヲ扶助スルヲ以テ己
 ノ任ト爲シ且聖堂ヲ造營シ學校ヲ設ケテ子弟ヲ教育シ病
 院ヲ立テ病者ヲ醫治シ老者ヲ寄宿セリ
 ペルムノ地方大ニ飢エシ時ステファン悉ク己ノ歳入ヲ施シ
 且人民ノ貢稅ヲ減セシテ大侯ニ哀願セリ又ノウゴロド
 ノ兵士ゼリノ衆民ヲ犯シタルトキステファン二度ノウゴロ
 ドニ至リテ己ノ牧衆ノ爲ニ王ノ前ニ伸理シ又遷民カ境内
 ニ襲ヒ入りシ時主教自ラ出テ之ヲ拒キケレハ遷民直ニ走

リ去レリステファン境内ヲ周巡レ道ヲ傳ヘテ神ノ言ヲ解説
 シ加之ナラス傳道ノ爲メ多クノ司祭及ヒ修士ヲ四方ニ派
 出セシメタリゼリ人ノステファンヨリ洗禮ヲ受クル者其員
 幾千ナルヲ知ラス又若干ノ修道院ヲ設立シ而シテ其管内ナ
 ルウストワエムノ周圍ハ五百餘里ノ廣キニ及ヘリ
 聖ステファン眞理ノ光ヲ以テ未開ノ地ヲ輝カシ民法ノ基ヲ
 立テ地方政治ニ改良ヲ加ヘ而シテ租稅官モ主教カ人民ヲ保
 護スルヲ知リ其譴責ヲ恐レ舊ノ如ク敢テ無法ナル収稅ヲ
 爲サ、ルニ至リケレハベルムノ人民大ニ主教ヲ敬愛シテ
 己ノ父ト稱セシトガヤ

ステファン主教タリシ時教會ノ事ノ爲メ二度モスコワ府ニ
 至リシカ大侯デミドリイドンスキイ及ヒ世子ワシリイデ
 ミドリイワイチ厚ク彼ヲ待セリ

降生一千三百九十六年ステファン又モスコワ府ニ召サル、
 ニ當リ自ラ死期ノ近ツクヲ悟リ大ニ牧衆ニ別ル、ヲ悲ミ
 發スルニ先ヲチ民ニ告別シテ教ル所アリケレハ民皆涕泣
 シテ其言ヲ謹聽セリ其一ニ曰ク諸父兄弟及ヒ我子ベルム
 人ヨ我等必ス我等ヲ眞理ノ光ヲ以テ輝カシ玉ヒシ我等ノ
 主ニ感謝セサルベカラス爾等、今、神ノ僕トナリ暗ヲ捨テ光
 明ニ就キ召テ蒙リテ自由ノ者トナリ神ノ義子タルノ榮ヲ

蒙ムレリ故ニ神ヲ愛シ人ヲ愛スルハ神ノ旨ニシテ神ノ誠命ナルヲ記憶シテ忘ル、ト勿レ神學者イチアン云ルアリ誰カ神ヲ愛スルト云ヘルモ若シ兄弟ヲ愛セザレハ是レ僞ナリト兄弟ヨ頼リテ善行ヲ爲セヨ蓋信ヲシテ行フナカラシメハ其信ハ死物ナリ智ハ小兒ノ如クナル勿レ唯惡ハ小兒ノ如クナルヘシ即チ智ヲ開キ己ノ本分ヲ守リ以テ神ノ聖旨ニ適フチカムヘシ僞教ヲ以テ人ヲ惑ハスト勿レ若シ誰カ是ノ過ニ陷ラハ爾等ノ中才徳アル者謙遜ノ精神ヲ以テ神ニ反シ固メヨ相互ニ合同和親シテハリストスノ誠ヲ守ルヘシ兄弟ヨ今我レ終リニ臨ミ聖使徒パウエルノ言ヲ

引テ爾等ニ告ケン曰ク兄弟乎今我レ爾等ヲ神及ヒ其恩ノ道ニ薦ム其能ク爾ヲ立テ爾ニ業ヲ賜フテ凡テ聖ヲ成スノ中ニ有ラシムレハナリ光榮讚美ヲ世々ニ歸スアミント衆皆大ニ哭シテ時々ステファンノ言ヲ止メステファンモ亦同ク哭セリ

聖ステファン主ノ深恩ヲ謝シ切ニ其教化セシ民ヲ保護シ賜ハンコチ祈リテ曰ク主ヨ願クハ此ノ新ニ洗チ受ケシ人即チ我レ不當ノ者カ爾ノ教ニ歸依セシメタル言語ヲ爲スノ羊群ヲ眷顧シ賜ヘ爾ノ恩寵ヲ以テ彼等ノ魂ヲ照シ彼等ニ爾ノ正道ヲ行ハシメ彼等ヲ正教ニ固メテ爾ノ誠ヲ行ハシ

メヨ彼等ノ品行方正ニシテ此ノ世ヲ渡リ永世無究ノ福樂ヲ受ル者ト成ラシカ爲メコ爾ノ扶佑ヲ収メテ之ヲ弄ル勿レト

聖ステファン大ニ悲テ牧衆ニ別レウストウエムヲ發足シモスクワニ至リシカ未ダ幾クナラスシテ彼レ風雨ヲ冒シ長途ヲ旅セシテ以テ病ニ罹リ歲尙五十七歳ナルモ氣力大ニ衰ヘテ治癒ノ難キヲ自ラ悟レリ大侯及ヒ諸主教諸侯伯亦屢々其病床ニ來リテ之ヲ慰藉セリステファン逝去ノ時ニ至ル迄ペルムノ牧衆ヲ念フテ忘ル能ハス己ニ隨行セシ人ニ托シ書籍及ヒ表衣ヲペルムニ贈リ且最後ノ教訓ヲ傳言シ後

事ヲ囑シ懇ニ彼等ニ其行フヘキヲ遺言シ終リ呼テ曰ク萬事ニ於テ主ヲ讚揚スト遂ニ魂ヲ主ニ復セリ實ニ降生一千三百九十六年五月七日ナリ衆民大ニ悲テ其亡体ヲクレムリノスパサ、ナ、ポール堂中ニ葬リ今猶其不朽体存セリト云フ
聖ステファンカ世ヲ逝ルノ訃音ペルムニ達スルヤペルムノ人民疑フテ之ヲ信セザリシカ後其眞ナルヲ知り常ニ敬愛セシ牧師ヲ失フテ痛ニ四方ヨリウステウエムニ集リ來リ救贖ノ祈禱ヲ行ヒシ時衆人大ニ悲泣シ諸神品モ慟哭シテ祭文ヲ讀ム能ハサリシトソ

聖ステファンノ同勞者タリシ修士エヒフアニステファンノ傳
 ナ編ミ其功績ヲ詳記シ又ペルムノ哀歌ヲ作リテ衆民ノ善
 牧師ヲ失ヘルヲ悲メル狀ヲ述テ牧師ノ偉業ヲ表揚セリ其
 歌ノ畧ニ曰ク禍ナル哉我等ノ兄弟ヨ今ヤ我等ノ善牧師去
 テ復タ還ラス我等カ魂ノ潔淨者我等カ肉体ノ保護者タル
 者ヲ失ヘリ彼ハ神及ヒ人前ニ中保シ我等ノ魂ノ救ヲ得ン
 カ爲ニ神ニ祈レリ侯伯ノ前ニ請願シテ我等ノ困難ヲ救ヒ
 公益ヲ謀レリ此ノ世ノ權アル者ノ前ニハ懇篤ナル辨護者
 トナリ我等ノ爲ニ仲理シテ租税ヲ輕ウセリ悲哉今我等復
 其人ヲ見ルヲ能ハス我等ノ福禱ナル師父ヨ幽明所ヲ異ニ

ス爾ノ聖ナル不朽体ハ遠ク我等ヲ去ルモ願クハ爾ノ祝福
 ハ恒ニ我等ノ中ニアランヲ蓋シ我等ハ爾ノ人ニシテ爾
 ノ柵内ノ羊ナレハナリト

○救主ノ親戚聖シメオンノ紀念九日

聖使徒シメオンノ父クレオパハエムマウスニ赴クノ途次
 主ニ遇ヒシ弟子ノ一人ニシテ聖母マリヤノ聘セラレシ聖
 イオシフノ兄弟ナレハシメオンモ亦救主ノ親戚ナリ義人
 イオシフノ子ニシテイエルサリムノ第一ノ主教タリシイ
 コフノ致命シタル後シメオン擇ハレテイエルサリムノ第
 二ノ主教トナレリシメオンカ先時ノ業ハ其詳ナルヲ知ル

能ハサレヒ主ノ昇天後ハ七十使徒ノ一人トナリテイウヂ
 ヤ人ニ福音ヲ傳ヘ而シテ聖イヤコフノ致命ヲモ目撃セリ
 聖シメオンハイエルサリムノ教會ヲ治ムル四十一年ナリ
 ロマ^人カ^テイト^チ將^トシ^テイ^エル^サリ^ムヲ破^壊セ^シ時^ノ如
 キハ衆^ハリス^テア^ニン^ト與^ニ難^チイ^エル^サリ^ムノ近^邑ヘ
 ル^ラニ避^ケ乱^定リ^テ後^イエ^ルサ^リムニ歸^リ又^テ教^會ヲ治^メ
 テ^ロマ^帝ト^ラヤ^ンノ時^ニ起^リシ窘^逐ノ時^ニ至^リク^リシメ
 オン^ハダ^ウイト^王ノ裔^{ナル}チ以^テロ^マ人^特ニ彼^ヲ嫌^惡ヒ^リ
 蓋^シロ^マ人^ハイ^ウヂ^イヤ^人等^カダ^ウイト^王ノ裔^ヲ奉^シ王^ト爲^シ
 テ^ロマ^政府^ニ反^カン^チ恐^レテ^ナリ^ロマ^人果^シメ^オン^チ

捕ヘ代官アツテカノ許ニ引キ至リ或ハ恐嚇シ或ハ苦シメテ
 彼ヲシテハリストス教ヲ棄テシメント爲シタレヒ其目的
 ナ達セサリキ蓋シメオン齡百二十歳ノ高キニ達シ其老衰
 ナ願ニス諸ノ苦難ヲ忍ヒ受ケ痛ク鞭撻セラル、モ屈セス
 シテハリストスノ名ヲ承認シ遂ニ十字架ニ釘セラレテ主
 ハリストスノ名ノ爲ニ致命シタルカ故ナリ
 一月十六日及ヒ四月九日ニ聖シメオンノ記念祭ヲ行ヘリ
 ○ト^ロフ^ノ聖^キリ^{ール}ノ紀^念十^日
 聖^キリ^{ール}ハ昔^時露^國ノ著名^{ナル}一^都府^プリ^ペト^河ノ邊
 ナル^トロ^フニ生^レシ人^ナリ幼^ヨリ學^ヲ好^ミ長^シテ修^道院

ニ入り孜々トシテヨク修士ノ本分ヲ尽シ數年ノ間登塔ノ
 苦行ヲモ爲シタリキリールノ著ハセシ書及ヒ靈益ナル解
 說等ハ皆大ニ世ニ稱讚セラル後、衆人ノ希願ニヨリテ其故
 山ナルトッロフノ主教ニ舉ラレシカ數年ヲ經テ之ヲ辞シ降
 生一千百八十二年再ヒ其常ニ願望セシ隱士ノ身トナレリ
 聖キリールノ著ハセル書ハ甚タ多ク即チ講說九篇修士職
 分論三篇書札及ヒ若干ノ祈禱文痛悔ノ讚歌等ニシテ皆意
 味深長ナリ其中痛悔ノ讚歌ノ如キハ神ヲ愛スルヲ燃ルカ
 如キノ愛ト深キ痛心ヨリ溢レ出ツル者ナリ年代記者彼ヲ
 名ツケテ露國ノ金口ト爲セリ彼レ人ト爲リ極メテ謙遜ニ

シテ常ニ己ノ荏弱ナルト才智ノ乏シキヲ自ラ稱ヘリ
 今茲ニハリストスノ復活ノ事ヲ說教セシ大畧ヲ記サン其
 書ニ曰ク「今、天ハ濛々タル闇雲ヲ去リテ清メ照サル、
 一モ弊衣ヲ脱スルカ如ク光明ナル空氣ヲ以テ主ノ光榮ヲ表
 ハセリ此ハ吾人ノ見ルヘキ天ヲ云フニ非ラス形而上ノ天
 ニシテ聖使徒等ノ天ヲ云フナリ使徒ハ悉ク總テノ憂愁悲
 難ヲ忘レ聖神ニ庇蔭セラレシオンニ於テ使徒ニ顯ハレ玉
 ヒシ主ヲ認メテ明ニ主ハリストスノ復活ヲ宣ヘ傳ヘダリ
 今ヤ春ハ地ノ産ヲ生シテ盛ナラントス東風靜ニ吹キ枝ヲ
 鳴トスシテ果實ノ成熟ヲ助ケ地モ諸ノ種ヲ養フテ萌生シ

草木ハ蒼々トシテ盛ナリ此ノ朗ケキ春ハ是レハリストス
ノ教ナリハリストスノ教ハ洗禮ヲ以テ吾人々類ヲ振興セ
リ云々

聖キリールノ祈禱文ハ神ニ於ケルコト燃ルカ如キ愛ヲ顯ハ
シ神ノ厚キ恩惠ヲ感謝シ且己ノ多罪ヲ悔ル深キ憂苦ノ顯
ハレサルハナシ今茲ニ其一ヲ記サン曰ク「ハリストスヤ光
榮ヲ爾ニ歸ス爾我ニ爾ノ至榮ナル復活ノ日ヲ見ルヲ得セ
シメダリ此ノ日爾ハ地獄ニ繫カレシ義人等ノ魂ニ自由ヲ
與ヘリ主宰ヤ我モ切ニ其自由ヲ得ンコトヲ望ム這ハ我レ罪
ニ縛ラレシ多クノ人ヲ解キ且爾ノ恩寵ノ光明ハ我カ啼マ

サレシ魂ノ中ニ光リ輝ヤクヲ願フカ爲メナリ我レ爾ノ數
フ能ハサル仁慈ト言ヒ盡シ難キ爾ノ寵愛ヲ知レリ爾我ヲ
無ヨリ有ニ呼ビ起シ爾ノ肖像ヲ以テ我ヲ修飾シ言語ト才
智トヲ以テ我ヲ萬有ノ造物ノ上ニ居ラシメ我ヲ彼等ノ主
宰ト爲シ玉ヘリ(中畧)爾我カ幼稚ノ時ヨリ今ニ至ルマテ我
カ救贖ノ爲ニ慮リ玉ヒ且我ヲ爾ノ至美ナル神使等ノ列ニ
加ヘンカ爲ニ誠命ヲ與ヘテ心靈上ノ行ヲ潔ク營ムコトヲ守
ラシメ玉ヘリ然レト我レ任意放肆ニシテ不潔ナル罪ノ泥
中ニ陥リ且爾ノ仁慈ニ遠サカレリ我カ魂ハ浴盤ニ再生シ
テ爾ノ子トナリシト雖我ハ罪惡ノ奴僕トナレリ故ニ魂ノ

病ニ苦ミテ審判ノ日ヲ思念シ且万事ニ疲弊シ中心ヨリ爾
 ニ呼フ我ヲ土ヨリ造リテ我ニ生命ヲ賜ヒ可_レ恭可_レ愛美ナル
 名ノイイススヨ願シハ終ニ至ルマテ我カ亡ブルコト許シ
 玉フ勿レヨト
 聖キリールノ傳ヲ終フルニ臨ミ彼レ聖堂ノ參拜ヲ惰タリ
 シ者ニ告ケシ教訓ヲ記サン曰ク「我若シ一己ノ私意ヲ以テ
 爾等ニ告ケシナラハ爾等聖堂ニ來ラザルモ可ナルベシ然
 レモ今我レハ爾等ニ主ノ言ヲ告ケハリストスノ誠命ヲ傳
 フルナリ若シ人アリテ王命ヲ臣下ニ傳フルニ臣下タル者
 豈其人ノ生業如何ト貧富正邪ノ如何トヲ問フアランヤ必

謹テ其言ヲ聞キ其傳フルコトヲ漏ラサ、ラント慮ルヘシ若
 シ地上ノ王ノ爲ニ斯ク心ヲ用ウベクンハ況ヤ爾等神、主宰
 カ神使等ト談話スルノ所即チ聖堂ニ至リテハ一層深ク心
 ナ用非ザル可カラズ是ヲ以テ我レ此所ニ來リシ人々ニ請
 フ願クハ彼ノ來ラザル者ヲ諭シテ聖堂ニ參拜スルコトヲ勸
 メヨ爾等或ハ頌美ノ歌ヲ了解セサルカ爾等若シ心ヲ用非
 テ學ハントセハ我レ爾等ニ是ヨリ大ナル者ヲ教訓セシ若
 シ心ヲ用非ズンハ我レ之ヲ緘默スヘシ然ラハ爾等ニハ教
 師アレトモ心ヲ用非ザルコト因テ必罪セラレン爾等我カ爲
 ニ聖堂ニ來ルニ非ス我ハ罪人ナリ然レモ福音ノ傳道ト使

徒ノ教訓ノ爲ニ來レリ兄弟ヤ人アリ若シ大陽ノ出ル時ニ
 其光ヲ見ルヲ欲セス目ヲ閉チテ光明ハ我カ爲ニ黑暗ニ若
 カスト云ハ、爾等コノ人ヲ何トカ云ハン狂ト云ハスンハ
 必至愚ト爲サン神ノ言モ亦斯ノ如シ神ノ言ハ聖書ニ於テ
 光明ト稱セラレ此ノ光明ハ総テノ見ユルノ光リヨリ遙ニ
 勝レリ夫レ見ユルノ光ハ唯能ク肉身ノ眼ヲ照セヒ此ノ光
 明ハ能ク心靈ノ眼ヲ照セリ豈ニ忽ニシテ可ナランヤ我レ
 若シ毎日爾等ニ蜂蜜或ハ酒ヲ分チ與ヘンニ爾等必ス吾ノ
 呼ハサル中ニ互ニ踵ヲ接セン然レヒ今我レ其貴キ黄金
 寶石ヨリモ遠ク勝リ其甘美ナル蜂蜜ノ比ニ非ラサル神ノ

聖言ヲ以テ爾等ニ分與スルニ哀哉爾等ハ聖堂ニ來ラズシ
 テ反テ此ノ寶ヲ失ヘリト

○十一日

此ノ日我カ正教會ハキシクニ於テ異教人ヨリ難ク受ケ遂
 ニ致命セシ九致命者聖フエオグニイ、ルフ、アンテパルトル、フエ
 オス、タイグ、アルテマ、マグン、フエオドト、フアウマシイ及フイリモン
 ヲ紀念セリ後大帝コンスタンティンノ時彼等ノ不朽体ヲ發
 見シ而シテ彼等ノ名ニ依テ聖堂ヲ造營セシト云フ

○セウエディノ子、聖使徒イアコフノ紀念十二日

聖使徒イアコフハ主ハリストスノ至愛ノ弟子ナルイオア

ソノ兄弟ニシテ其父ヲセツデイト稱セリ其母サロヤハ初
 テハリストスヲ承認シテ主ノ教ヲ信セシ諸婦ノ一人ナリ
 トソ彼等兄弟二人ハ初メ漁者ナリシカ一日父ト共ニ舟ニ
 在リテ網ヲ補フ時教主其側ヲ過キ之ヲ見テ彼等ヲ招キ己
 ニ從フコトヲ命ジケレハ是ヨリシテ彼等二人ハ前業ヲ捨テ
 テ常ニハリストスニ從ヘリ其後フワオル山ニ於テ主ノ變容
 ナ目撃シ又イアイリノ女ヲ復活ヒシ時モ主ニ從ヒ教主カ
 ケフシマニヤシ國ニ在リテ祈禱セシ時モ又主ニ從ヘリ主
 ハ彼等ニ名ヲ賜フテウヰアチリゲスト云フ蓋シ雷ノ子ノ義
 ナリ

福音者マトフエイガ云ヘル如ク或ル日セツデイトノ二子ノ母
 救主ニ就キ請フテ曰ク此ノ二子爾ノ國ニ在リテ爾ノ左右
 ニ座スルヲ許セヨトイイスス曰ク我が飲ムノ杯爾能ク飲
 ムカ我カ受クルノ洗爾能ク受ルカト主ハ弟子等カ此ノ教
 訓ノ深意ヲ悟ラサルヲ見テ彼等カ地上ノ首長タラントス
 ルノ念ヲ絶タシメント欲シテ曰ク爾ノ中大タラント欲ス
 ル者ハ當ニ爾ノ役ト爲ルヘシ首ト爲ラント欲スル者ハ當
 ニ爾ノ僕ト爲ルヘシ猶ホ人子ノ至ルハ以テ人ヲ役スルカ
 爲ニ非ス乃人ニ役セラレ生命ヲ捨テ、衆ノ贖ヲ爲スカ如
 クナルヘシト聖使徒等ハハリストスノ此ノ誠命ヲ心ニ銘

シテ忘レサリシト云フ聖使徒イアコフ救主ノ昇天後、主ハ
リストステ承認セシ爲メ捕縛セラレテ獄舎ニ繋カレシカ
イロドアクリパノ命ニヨリ遂ニ致命セリ蓋十二使徒中致
命者ノ嚆矢ナリ

再說聖使徒イアコフカ死ニ定メラレ刑場ニ至ルノ途次、彼
ヲ護送スル兵士イオシイ其侃々トシテ恐怖ノ色ナキヲ見、
感シテハリストスニ歸依シ聲高ラカニイイススハリスト
スヲ承認シテケレハ遂ニ死刑ニ定メラレ刑場ニ至リ聖イ
アコフノ足下ニ俯伏シテ罪ノ赦シヲ請ヘリ聖使徒イアコ
フ彼ヲ抱イテ曰ク爾平安ナルベシト遂ニ共ニ刎首セラレ

タリ是レ實ニ昇天後十年ノ事ナリキ聖使徒ノ遺体ハ「ハリ
ステアノン」等証テイエルサリムニ葬リ後又イスバニヤニ
遷セリイスバニヤ人ハ聖使徒イアコフヲ己ノ守護者ト爲
シテ大ニ之ヲ尊ヘリト云フ

○聖預言者イエレミヤノ紀念十三日

舊約書中ニ主神ノ恒忍仁慈ナル事ヲ記スルハ枚擧スルニ
遑アラス主ハ奇蹟ヲ行フテイスラエリ民ヲ苦ナル擄ノ中
ヨリ免レシメテエギペトヨリ出ダシ曠野ニ於テ長旅ノ間
ニ彼等ヲ護リ且之ヲ救フルカ爲メニ諸聖人ヲ遣ハシ玉ヘ
リ此ノ諸聖人ハ主ノ默示ヲ得テ主ノ聖旨ヲ傳リ未來ヲ洞

知スルノ異能ヲ受ケリ即預言者是ナリ而ノ常ニ主ヲ忘レ
偶像邪神ヲ拜スル民ノ中ニ在リテ嚴カニ主ノ誡命ヲ守リ
神ノ盟約ヲ忘却セスシテイウヂヤ人ニ罪惡ノ道ヨリ反正
スヘキヲ勸メ悔改ノ道ヲ傳ヘ罪惡ヲ悔ヒ改メサレハ大ナ
ル罰ヲ受ケンコトヲ戒メ且メツシヤ救主ノ盟約ノコトヲ告ケタ
リ然レトイウヂヤ人ハ常ニコノ神ノ旨ヲ傳フル嚴正ナル
者ノ言ヲ聽カスシテ反テ巧言ニシテ敢テ彼等ノ罪過ヲ責
メサル僞預言者ニ從ヘリ夫レ嚴正ナル言ハ多ク人々ノ受
クル所トナラサルモ主ノ言ハ必ス寤難セラレ、者ヲ慰藉
セリ

主ノ言ニ曰ク義ノ爲ニ窘逐セラレ、者及ヒ我が爲ニ惡言
誹謗セラレ、者福ナリ當ニ欣喜歡樂スベシ斯ハ如キ者ハ
天ニ在リテ賞ヲ得ルコト大ナルヲ以テナリト夫レ十六人ノ
預言者中、大部ノ書ヲ著ハセシ者ハイサイヤ、イエレミヤ、ダ
ニイル及ヒイエゼキイルノ四人ナリ我カ正教會ハ五月十
三日ニ聖預言者イエレミヤヲ紀念セリ
聖イエレミヤハ大約降生六百年前ノ人ニシテ司祭ヘルキ
ヤノ子ナリ幼稚ノ時ヨリ已ニ聖神ヲ滿被シ年甫テ十五歳
ノ時主彼ニ神ノ旨ヲイウヂヤ民ニ傳フルコトヲ命セリイエ
レミヤ主ニ答テ曰ク主神ヨ我レ尙ホ幼ニシテ未タ何ヲカ

言フベキヲ知ラズト主彼レニ告テ曰ク爾自ラ幼ナリト云
 フ勿レ凡ソ我カ遣ハス所ハ爾必之ニ往ケ凡ソ我カ爾ニ命
 スル所ハ爾必之ヲ言ヒ彼等ヲ畏ル、ト勿レ蓋我爾ト借ニ
スト且神ハ手ヲ伸シテイエレミヤノ口ヲ捫シテ曰ク視ヨ
 ヤ我カ言ヲ以テ己ニ爾ノ口ニ與ヘ爾ヲ列國及ヒ列邦ノ上
 ニ置ク是レ蓋拔クヘシ敗ルヘシ滅スヘシ毀ツベシ建ツヘ
 シ植ヘキカ爲ナリト(一章參看)
 是ノ事ハイウデア國ノ敬虔ナル諸王ノ一イオシヤ王ノ時
 ナリキイオシヤ王ハ力ヲ尽シ人民ヲシテ迷ヲ去リ再ヒ唯
 一ノ眞神ニ奉事セシメント謀リタレモイウデア人ハ既ニ

異教ノ類敗セシ風俗ニ染マリ只イエスサリムノ近傍ノミ
 ナラス岡陵森林到ル所ニ偶像ヲ祭ラサルナク遂ニソロモ
 ンノ聖堂ノ側ニ偶像ヲ建テ祭ヲ献スルニ至リ且全ク唯一
 ノ主ヲ忘ル、ニハ非サレト其奉事ハ唯外儀ノミニ止マ
 シユヘイエレミヤ主ノ命ヲ受ケ痛クイウデア人ノ不法ヲ
 責メ神ノ義怒ヲ告ケ知ラセ且一強國ノ民來リテ將ニイウ
 デイヤ全地ヲ亡ボシ其子女ヲ敗リ其堅城ヲ毀タントスト預
 言セリ
 聖預言者人民ニ告テ曰ク主曰フ我將ニ北方列邦ノ諸族ヲ
 召サントス彼レ必來リ各其位ヲイエルサリム諸門ノ入口

ニ立テ而ノ其城垣ノ四周及ヒイウヂヤノ諸邑ニ及ホサシ
 我レ將ニ彼等カ凡ソ行フ所ノ惡ノ爲メニ我レ彼ヲ攻ルニ
 擬スル所ノ諸翰ヲ爾等ニ明言セントス蓋彼等ハ我ヲ棄テ
 香ヲ他神ニ焚キ己ノ手ニテ作ル者ニ崇拜スレハナリ
 參^ヤ一^章イアコフノ家ヨイズライリ家ノ諸支派ヨ咸十宜ク
 主ノ言ヲ聽クベシ主是ノ如ク言テ云ク爾カ列祖ハ我カ何
 ノ惡行有ルヲ見テ遠ク我ヲ離レ虛物ニ從事シテ虛浮タル
 ナ成スヲ致セルヤト
 二^イエ^レ參^ミヤ
 怒ヲ告ケテ曰ク主是ノ如ク言テ云ク爾曹宜ク途ニ立テ以
 テ觀テ其舊徑及ヒ其善途ノ安クニ在ルヲ索ムベシ爾且宜

ク之ニ行クヘシ則必己ノ魂ノ爲ニ安ヲ獲ン惟彼レ曰ク我等
 之ニ行カズト我レ守望者ヲ設ケ爾ニ望テ曰ク旅ノ聲ヲ聽ケ
 ト唯彼レ曰ク我等肯テ聽カサルナリ列國ヨ此ニ緣テ爾宜
 ク之ニ聽クベシ會民ヨ爾宜シク其中ニ何有ルヲ知ルヘシ
 地ヨ聽ケ視ヨヤ我將ニ災ヲ携ヘテ斯ノ民ニ臨マントス即
 其^カ圖^カ維ノ結果其我カ言ト我ノ律法トテ聽カザルニ緣テ乃
 之ヲ棄ツルナリ乳香サワヨリ我ニ來リ菖蒲遠方ヨリ我ニ
 來ル是レ胡ン爲ソ我レ爾ノ燔祭ヲ悅ハズ爾ノ祭物我之ヲ
 以テ甘シトナサヌ
 一^イエ^レミ^ニ十^六
 民是ノ嚴正ナル言ヲ聞テ大ニ怒リ且神官及ヒ偽預言者ノ

憐憫スル所トナリ遂ニイエレミヤヲ迫害窘逐セリ時トシ
 テハ預言者イエレミヤモ亦斯ル窘逐ヲ悲歎シテ曰ク我レ
 日々人ノ嬉笑スル所ト爲リ人皆我ヲ欺侮ス我カ宣言セシ
 ヨリ以來我毎ニ號呼セリ我カ宣告スル所ハ乃強暴却奪ナ
 リ蓋主ノ言日々我ニ依テ辱ト藐忽トヲ爲スノ故ナリ是ニ
 於テ我レ曰ク必復タ主ヲ言ハス亦其名ニ託シテ言ハサラ
 ジ然レモ我カ心中ニ在リテ火ノ焚ケテ骨中ニ閉ルカ如キ
 アリ我レ約束ニ勞ノ立ツ能ハサルナリ蓋我レ多ク人ノ讒
 慝ヲ聞キ四周ニ在リテ恐懼スル有リ彼レ曰ク宜ク之ヲ控
 グヘシ我等必之ヲ控ゲン凡テ我ト相属スル者咸我ノ謁厥

ナ窺伺ス乃曰ク或ハ彼レ誘ヲ受クヘシ則我等之ニ勝ツヲ
 得ン必之ニ報スルニ仇ヲ以テセン惟主ハ強暴ノ勇士ノ如
 シ乃我ト偕ニス故ニ我ヲ迫害スル者厥ツキテ勝ツ能ハサ
 ルヲ致スルト

然リト雖神ノ啓示ニヨリテ預言セシ事如何ソ違フヲ得ン
 ヤ既ニシテイウデアヤ國ニ大難來リエギベト王フアラオンチ
 ハオ大軍ヲ率テイウデアヤニ攻メ入リイエエルサリムチ陷
 レシカハイオシヤ王傷ヲ受ケ遂ニ死セシユヘイエレミヤ
 ハ敬虔ナル王ノ死セルヲ聞イテ大ニ悲メリ而ソフアラオン
 チハオハイオアキムチ立テ、王トナシテ貢ヲ納レシメタ

リイウデイヤ民ハカク一クヒ禍ヲ受クレヒ少シモ悔改セズ
 猶ホ悪行ヲ縱ニシ燔祭諸禮ノ如キハ唯外儀ノミ之ヲ行ヘ
 リ然レヒ神ニ奉スヘキ者ハ眞實ノ悔改ト信ト愛トニ在リ
 テ外部ノ諸禮ニアラサレハ主ハイエレミヤニ聖殿ノ門ニ
 立チ其將ニ之ニ入ラントスル者ニ云ハシメテ曰ク「萬軍ノ
 主イズライリノ神是ノ如ク言テ曰ク爾ノ諸途ト爾ノ作爲
 トチ改メヨ我レ必ス爾ヲシテ斯處ニ居ルヲ得セシメン僞
 言ニ倚賴シテ云フナカレ主ノ殿主ノ殿主ノ殿ハ即此ナリ
 ト蓋爾若シ悉ク爾ノ諸途及ヒ爾ノ作爲ヲ改メ爾若シ尽ク
 義鞠ヲ人及ヒ其鄰ノ間ニ施シ爾若シ旅人ト孤寡トチ虐遇

セズ無辜ノ血ヲ此ノ地ニ流サズ又他神ニ從テ以テ自ラ害
 セズバ則我レ必爾ヲシテ斯處即我レ爾ノ列祖ニ賜ヒシ所
 ニ居リ永遠ニ迨マテ暨リナカラシメン視ヨヤ爾曹無益ノ
 僞言ニ倚賴シ爾攘竊シ人ヲ殺シ淫ヲ行ヒ妄ニ蕪ヒ香ヲ他
 神ニ焚キ且來テ我カ前ニ立チ此ノ我カ名ノ爲メニ稱セラ
 ル、ノ室ニ在テ云フ我等救ヲ得ルト爾ノ言此レ此ノ凡テ
 憎ム可キノ事ヲ行フヘキヲ致ス此ノ若キヲ行フ可ケンヤ
 此ノ室ハ我カ名ヲ以テ稱セラル、者ナリ爾之ヲ視テ盜ノ
 巢ト爲ス乎(中畧)我レ爾ノ列祖ヲ携ヘテユギペトチ出ルノ
 日未嘗テ燔祭ト諸祭トニ論及シ之ヲ命セス惟我レ彼ニ命

ナルニ此ヲ以テノ曰ク我カ聲ニ遵ヘヨ則我レ必爾ノ神ト
 爲ラン爾必ス我ノ民ト爲ラン且我カ凡テ爾ニ命スル所ノ
 道ヲ行フテ爾カ祥ヲ獲ヘキヲ致サン惟彼レ聽カス耳ヲ傾
 ケス其惡心ノ謀ト剛愎トニ循テ行ヒ且退イテ進マズ爾ノ
 列祖エギペトヲ出ルノ日ヨリ今日ニ至リ我曾テ我カ僕即
 預言者ヲ遣シ爾ニ詣ルモ爾尙ホ我ニ聽カズ亦耳ヲ傾ケス
 (イエレミ 三十七章) 其後主ハ又イウデイヤ人ヲ罰セントスル諸難即イ
 ウデイヤ民ノ永ク他國ニ征服セラレントイエルサリムノ毀
 壞及ヒ至イウデイヤノ空曠トナラントイエルサリムニ啓示
 シテ曰ク斯ノ民ノ屍必天空ノ鳥及ヒ地ノ獸ノ食トナリ而

ノ人之ヲ驅逐スル無カラシム時ニ我將ニイウデイヤノ諸邑ヨリ
 及ヒイエルサリムノ街衢ヨリシテ欣喜ノ聲ト歡樂ノ聲ト新
 娶者ノ聲ト新婦ノ聲トヲ息メントス蓋斯ノ地必空曠タル
 ヲ成サン (イエレミ 三十七章 三十四章)

預言者イエレミヤ深ク心ヲ痛マシメ主神ノ赦免シ玉ハン
 ヲ祈リケレハ主ハイウデイヤ人ノ悔イ改ムヘキヲ促シ玉
 ヘトモ彼等ハ剛愎ニシテ其惡業ヲ棄テザリシカハ神ノ義
 怒遂ニ彼等ニ及ベリイエレミヤ誠信ヲ以テ怖ル、色ナク
 彼等ヲ悔改ニ導ヒキ主ノ言ヲ以テ民ニ告示シ民ノ集會ニ
 於テ聖殿ニ於テ宮中ニ於テ屢々道ヲ傳ヘリ一日イエレミ

ヤ主ノ命ニ從ヒテ瓦器ヲ取り衆ノ前ニ擲テ之ヲ毀テ主
 ハ恰モ斯ノ如ク惡ヲ行フノ民ヲ盡ク亡シ玉ハント云ヒケ
 レモ彼等心猶悟ラス益怒リテイエレミヤヲ惡ニ遂ニ聖殿
 ニ於テ之ヲ捕ヘテ死ニ處ス可シト曰ヒシカ預言者泰然ト
 シテ曰ク主ハ我ニ左ノ如ク爾等ニ告クヘキヲ命シ玉ヘリ
 曰ク我ニ向ヒ爾ノ行爲ヲ改メ我カ誠命ヲ守レト果ソ然ラ
 ハ神ハ仁慈ヲ以テ其將ニ來ラントスルノ諸難ヲ避ケシメ
 ン我レ爾等ノ手中ニ在レハ爾等意ニ任セテ我ヲ處セヨ然
 レト我カ血ヲ爾等ヨリ索ムルヲ知レ蓋シ主ハ誠ニ我ヲ遣
 シ我ハ誠ニ主ノ言ヲ以テ爾等ニ告クレハナリト然レト爾

民、神官偽預言者等ハ彼ヲ罰スルヲ促シテ止マサレハイ
 ウデイヤノ諸侯能ク之ヲ制止シテイエレミヤヲ救フヲ能ハ
 ザリシ
 斯ク幾クモナクシテワイロン王ナウホドノソルイエルサ
 リムヲ攻メ取り聖殿ノ寶物ヲ掠奪シ夥多ノ人民ヲ擄ニシ
 本國ヲワイロンニ移シ而シテイオアキム尙ホ王タルヲ故ノ如
 シナレモ貢ヲワイロンニ収メタリイエレミヤハ國民ノ擄
 囚セラル、フ七十年ノ久キニ至ランヲ王及ヒ國民ニ告
 ケタルモ偽預言者等ハ其擄囚ハ永カラスト爲シテ彼等ヲ
 惑ハシ而シテイエレミヤヲ獄舎ニ繫キタリ

主ノ言イエレミヤニ臨ミテ曰ク爾宜ク書卷ヲ取テ我カ凡
 テ爾ニ諭ス所我カ初メ爾ニ諭スノ日ヨリ今ニ至ル迄ノ事
 ナ以テ皆之ヲ卷中ニ記シ而シ民ノ前ニ讀マシムヘシ彼レ
 我カ凡ソ彼レノ身上ニ降サント擬スル災ヲ免ルヘキヲ聽
 カハ其人各轉シテ惡途ヲ離レ我ヲシテ其愆尤ト罪惡トヲ
 赦スヘカラシムルヲ致サント
 是ニ於テイエレミヤ弟子ワルフヲ召ヒケレハワルフ至リ
 テ獄窓ノ外ニ坐シ悉ク聖預言者ノ言ヲ所ヲ筆記シ終レリ
 イエレミヤワルフニ囑シテ曰ク我今囚ハレ主ノ室ニ往ク
 能ハス爾往テ主ノ言ナル我カ口ヨリ書スル所ノ卷ヲ以テ

主ノ室ニ在リテ當ニ禁食スヘキノ日ニ於テ之ヲ讀ミ民衆
 ナシテ之ヲ聞カシムヘシ彼レ或ハ祈禱ヲ主ノ前ニ獻シテ
 各々其惡途ヲ離レン蓋主カ斯ノ民ヲ攻ルト言フノ怒ト怨
 ト甚大ナレハナリト是ニ於テワルフ預言者ノ命ノ如ク之
 ナ行ヒシカ王之ヲ聞イテ其書卷ヲ携ヘ來ラシメ之ヲ爐ニ
 投シテ咸ク焚カシメタリ然レト主ハイエレミヤニ命シテ
 他卷ニ前卷ノ諸言ヲ書セシメ且之ニイエレミヤニ臨ムノ
 主ノ言トイオアキムノ將ニ死セントスルノ預言ヲ加ヘリ
 偽預言者ニ惑ヘルイオアキム王ワワロンニ貢ヲ納メサリ
 ケレハナウホドノツル又大軍ヲ遣シテ忽イエルサリムヲ

襲取リイオアキム王ヲ殺セリイオアキム王死スルノ後イ
 エホコヤ王位ニ即キタルモナウホドノソル王之ヲ擄シ而
 ノイエホニヤノ代ニセデキヤヲ立テ王ト爲セリ
 イエレミヤ深ク郷國ノ衰フルヲ悲哀シ神ニ其臨マントス
 ルノ義怒ヲ赦サンヲ祈リシカハ主ハ彼ヲ慰藉シテイウ
 デイヤ人ヲ俘囚ヨリ還シ曾テイアコフニ約セシ如クイウダ
 ヤ人ヲ地上ニ大タラシメントシテ曰ク昔イズライルヲ散
 セシ者ハ將ニ復之ヲ聚メテ之ヲ守ルヲ牧者ノ其群ヲ守ル
 カ如ク然ラントスト又曰ク聲アリテラマニ聞フ即悲哀痛
 哭ノ聲ニシテラヒリ其子ヲ哭シテ肯テ慰テ受ケス子ノ存

スルナキヲ以テノ故ナリ主是ノ如ク言テ曰ク爾ノ聲ヲ禁
 シテ哭スルナカラシム爾ノ目ヲ禁シテ涙ヲ下スナカナシ
 ム蓋主曰ク爾ノ工必償ヲ得ン彼必敵ノ地ヨリ復歸ラン
 (一)イエ十五、十六(ト)其後又主ハイエレミヤニ救主カダワドノ
 裔ヨリ出テソトヲ示セリ曰ク視ヨヤ日將ニ至ラントス我
 レ必我カイズライリノ家トイウダノ家トニ賜フヲ許セシ
 所ノ祥ヲ成サン此ノ日ニ當リ此ノ時ニ當テ我將ニ義ノ杖
 ニ生長シテダワドト與ニセシメントス彼將ニ義鞫ト公義
 トヲ斯ノ地ニ行ハントス彼ノ日ニ當テイウダ將ニ救ヲ得
 ントスイエルサリム將ニ安居セントス彼レ稱セラル、ノ

名ハ曰ク主我等ノ義ナリ(イエレミヤ三十四)

聖預言者イエレミヤ神ノ啓示ニヨリイウデヤ人コソワ
ンニ俘囚タルノ永キヲ告ケソワロンニ擄セラレシ者ニ
書ヲ遣ハシ之ニ諭スニ永ク其地ニ在リテイエルサリムニ
歸ル能ハザレバ或ハ家ヲ作り或ハ嫁シ或ハ娶リ暫ク不幸
ナル運命ヲ忍フベキト偽預言者カ本國ノ再興ヲ勸ムルノ
言ニ從ハズシテ其寓國ノ爲ニ幸福ヲ神ニ祈ルベキヲ以テ
セシカ此ノ事早クモイエリムニ居ルイウデヤ人ニ知
ラレ彼等大ニ怒リテセデキヤ王ニ勸メテ先キツ頃暫ク放
免セシ預言者イエレミヤヲ再ヒ獄中ニ囚セリセデキヤ王

先王ノ鑑ヲ忽ニシソワロンニ貢ヲ納ルヲ肯セサリシカハナ
ウホドノソル王又大軍ヲ率テイサルサリム城ヲ圍ミシ
ユヘ王再ヒ聖預言者イエレミヤヲ召シ其意見ヲ問ヘシニ
イエレミヤ答テ曰ソ宜クソワロン王ノ命ニ順フヘシト然
レト偽預言者等ハソワロン王久カラスシテ必圍ヲ解イテ
去ラント言ヒテ之ヲ防キシカ數日ノ後果ソワロン王ナ
ウホドノソルハエギベト王カ軍ヲ出シテイウデヤ人ヲ助
クルト聞キ一時圍ヲ解キシ故偽預言者ハ其言ノ圖ニ當リ
シヲ以テイエレミヤヲ縛シテ洞中ニ幽囚セリ然レト幾ク
ナラスシテオウホドノソル王エギベトノ軍ヲ敗リ全軍ヲ

合セテ再ヒイエルサリム城ヲ攻メ圍ミケレハセデキヤ王
 大ニ恐レ聖イエレミヤヲ召シテ國家ノ運命ヲ問ヒシニ
 エレミヤハ不幸ナル運命ヲ預言セリ斯クテ在城ノ人ハ飢
 餓ニ迫リ困難云フヘカラサリシカ敵遂ニ城ヲ陷レセデキ
 ヤ王ヲ擒ニシ王ノ目前ニ於テ其諸子ヲ殺戮シ次テセデキ
 ヤ王ノ眼ヲ抉リ鉄楯ヲ以テ彼ニ附シツワロンニ送リタリ
 ナウボドノソル王ソロモンノ聖堂ヲ毀テ寶物ヲ奪ヒ王宮
 ナ焼キ灰燼トナシ而シテ夥多ノイウデヤ人ヲ擒ニシテツワ
 ロンニ移シタリ而シテ其止リタル者ハ只牧者ト農夫ノミナ
 残キ

聖預言者イエレミヤ敵人ノイエルサリム城ヲ蹂躪セル時、
 數人ノ司祭等ヲ伴フテ聖堂ニ至リ至聖所ヨリモイセイノ
 時ヨリ其時ニ至ル迄消エサルノ天ヨリ降りシ聖火ヲ取り
 出シ水ナキ井中ニ隠シ又行堂ト約櫃トヲ取り嘗テ預言者
 モイセイカ約地ヲ臨ミ見シ山中ノ洞穴ニ入レ石ヲ以テ洞
 穴ノ外ヲ圍ミ神ノ名ヲ以テ封印セリ
 傳ヘ云フイエレミヤ己ノ傍ニ立テシ人ニ謂テ曰ク主ハ
 オンヨリ天ニ昇リ復全能ノ力ヲ以テ來リ玉ハ神ノ來ル
 ハ奇蹟ナリ万民皆叩拜俯伏セン此ニ於テモイセイハ洞穴
 ヨリ約櫃ヲ出タシアアロンハ石板ヲ毀タント其後今ニ至

ルマテ人誰モ約櫃ノ所在ヲ發見スルナシ
 ナウホドノソル王ノ命ニ因テワワロンノ軍將厚クイエレ
 ミヤヲ尊敬シ其ソニワワロンニ至リ富貴ノ間ニ世ヲ送ル
 ヘキヲ勸メタレモイエレミヤハワワロンニ往クヲ欲セス
 ジテイエルサリムノ貧民ト共ニイウデヤニ止マリ歌ヲ作
 リテイウデヤ人ノ悲哀ヲ吊セリ即チ哀歌是ナリイエレミ
 ヤハ猶イウデヤ人ニ神ノ旨ヲ告ケ從順ニシテ悔改スヘキ
 コチ教ヘタレトイウデヤ人ハ尙ホ舊ノ如ク聖預言者ノ言
 ニ從ハズ幾モナクソナウホドノソル王ノ遣セシ代官ニ反
 キ遂ニ之ヲ殺セシカ王ノ激怒ニ逢ハソチ懼レエギペト

ニ走ラント欲シ其不同意ナル聖預言者ヲ強迫シ伴ヒテ共
 ニ出發セリ
 スクテエギペトニ至リシガ聖預言者ハ彼所ニ於テ多ノ預
 言ヲ爲シ其中ニワワロンノ滅亡トエギペトニ走リシイウ
 デヤ人ノ尽ク殺サレソテ預言セシニヨリイウデヤ人大
 ニ怒リ遂ニ聖預言者ヲ石擧セリ此ノ歲ワワロン王ナウホ
 ドノソルエギペトヲ征伏シテ悉クエギペトニ在ルイウテ
 ヤ人ヲ殺セシカバ未タ一年ナラサルニ預言果シ應シタリ
 又聖預言者カ嘗テ其洞穴ニ降誕シテ馬槽ノ中ニ置ル、ノ
 嬰兒及ヒ處女アリテエギペトニ來ラソチ預言セシ故ニ

ギベト人ノ中ニ處女ノ側ニ嬰兒ヲ馬槽ノ中ニ置キシ畫像
ヲ作り之ヲ敬拜スルノ風アリ茲ニ年ヲ經ル久キ後エギベ
ト王プトロメイ神官ニ問フテ曰ク此ノ畫像ハ何者ナルヤ
神官答テ曰ク是レ大ナル預言者カ我等ノ祖先ニ告ケタリ
シ大ナル奇蹟ナリ我等常ニ此ノ預言ノ果ノ成就センヲ
俟ツ也ト

聖預言者カ逝去ノ後イズライリノ將帥イウダマツカワイガ
アンテオフ王ト戰フノ時聖イエレミヤ光榮ヲ以テ彼ニ顯
レシカハイウダ問テ曰ク是レ誰タルヤト神使アリ答テ曰
ク是レ大ニ神ニ聖城ノトト民ノトヲ祈リテ誠ニ兄弟ヲ愛

スルノ聖預言者イエレミヤナリト此時イエレミヤ手ヲ伸
ハシ黄金ノ劔ヲ與ヘテ曰ク神ノ賜ハル聖劔ヲ受ケヨ爾之
ヲ以テイスラエリノ諸敵ヲ破ラント

○苦難ヲ忍ヒシ聖ボリス及ヒグレブ即聖洗ノ時
マン及ヒダワイドト稱セシ者ノ紀念十四日

眞理ノ光ヲ以テ露國ヲ教化セシ大侯ウラデミル全國ヲ分
ツテ十二州ト爲シ諸子及ヒ己ノ養育セシ姪スワトボウク
ヲ封シテ侯伯トナセリ斯ク國土ヲ分ツテ諸子及ヒ親族ニ
與フルハ當時ノ風ニシテ蓋國ヲ治ムルノ勢ヲ分メントス
ルノ目的ナレト多クハ是ノ目的ヲ誤リ内亂騷擾ノ原因ト

ナリテ其目的ヲ達スルヲ甚稀ナリ
 降世一千零十五年ウラデミル大侯カ世ヲ逝ル時常ニ其側
 ニ居リシ者ハ姪スワヤトボウシノミナリ大侯ウラデミル曾
 テ諸子ト同ク國ヲ分ツテスワヤトボウシニ與ヘタルモ其人
 ト爲リ奸惡ナルヲ知リテ之ヲ愛セサリシカ果シテ大侯カ
 見ル所ノ如ク大侯ノ世ヲ逝ルヤスワヤトボウシ忽其位ヲ奪
 ハント欲シ府民ヲ集メテ大ニ之ニ施シ而シテ民ノ歡心ヲ得
 自立シテ王ト稱セリ此ノ時ウラデミルノ愛子ロストウ侯
 ボリスハペチエチク人ヲ征スルカ爲メ父大侯ノ命ヲ奉シテ
 戰場ニアリタリシカ其人ト爲リ寛仁大度ニシテ容貌雄美

ナレハ大ニ國民及ヒ兵士ノ敬愛スル所トナレリスワヤトボ
 ウクハロストウ侯カ民心ヲ得ルノ深キヲ見テ之ヲ忌ミワ
 スゴロドノ貴族數人ト謀リ遂ニ之ヲ殺サントセリ而シテ己
 ノ惡意ヲ悟ラレシテ恐レ使者ヲ遣シ甘言ヲ以テ他意ナキ
 ヲ表セリ
 是ヨリ先キボリス軍ヲ率ヒテ出征セシ時ベチエチク人已ニ
 退キテ境内平安ニ歸シケレハ兵ヲ用非スシテ歸ルノ途
 リタ河ノ濱ニ至ル時兄弟ノ遣ヒシ使者ニ逢ヒ父ノ訃音ヲ
 得タリシカ諸將皆侯ニ勸メテ曰ク國民皆爾ヲ敬愛シ且兵
 權爾ノ手ニアリ宜ク都府キユウニ歸リ父ニ嗣テ王位ニ即

百二十六
クヘシト然ルニボリス諸將ニ謂テ曰ク我レ敢テ我カ兄ニ
抗セシヤ我カ父即世ノ後ハ我ノ兄ニ從フテ尙ホ父ニ從フ
カ如クセント此ノ時近侍某スヲトボウクノ惡意ヲ知リ侯
テ諫メタレニ寛仁大度ナルボリス侯ハ兄弟ノ間ニ斯ル惡
心ヲ懷キ僞計ヲ挾ムテ信セズシテ敢テ戒心セズ唯父ノ
死セルヲ深ク悲ミ神ニ祈リテ慰ミテ求メントセリ斯ク土
曜日ノ夕ヨリ主日ニ至ルマテ天幕ノ中ニ在リテ終夜專ラ
神ニ祈リ居リシカ俄ニ人アリ告テ曰クスヲトボウク侯ノ
遣ハセル刺客來リテ已ニ幕外ヲ圍ミタリト事急速ニ出テ
シテ以テ之ヲ拒クニ由ナカリシカボリス侯尙ホ幕内ニ在

百二十七
リ端然トシテ目ヲ救主ノ聖像ニ注キ祈リテ曰ク神ノ子主
イエススハリストス我等ノ救贖ノ爲メ人体ヲ藉リ地ニ降
臨シ我等ノ罪惡ノ爲ニ甘シテ十字架ニ死シ玉フ者ヨ我ヲ
シテ將ニ受ケントスルノ苦難ヲ忍ハシメ玉ヘ是レ仇敵ヨ
リスルニ非ス我ヲ殺サントスル兄弟ヨリスルナリ主ヨ願
クハ是ノ罪ノ爲ニ我カ兄弟ヲ罰スルヲ勿レト祈リ畢リ神
ノ聖旨ニ任シ床上ニ坐シ從容トシテ死ヲ待ナタリケルニ
刺客直ニ幕内ニ入り劍ヲ以テ年少ナルボリス侯ヲ刺シ殺
サントナヒシカハ待童ヲシテリヤノ人ゲオルギイナル者
己ノ愛セル主侯ヲ守ラント欲シカヲ尽メ之ヲ防キタレド

侯ハ遂ニ刺客ノ手ニ殺サレタリ刺客ハゲオルギイノ首ニ
 黄金ノ鎖ヲ懸ルヲ見テ之ヲ取ラントシテ又之ヲ刎首シ而
 ノボリス侯ノ遺体ヲ車ニ乗セスワットボウクノ許ニ送リテ
 以テ實檢ニ備ヘタリ
 スワットボウク、ボリス侯ヲ殺セシ後侯ノ同母弟ムールス侯
 グレブカ仁且勇ニシテ人心ヲ得ルノ深キヲ以テ之ヲ忌ミ
 亦之ヲ殺サント欲シ使者ヲ遣シテグレブニ言ハシメテ曰
 シ爾ノ父君病床ニ臥シ甚爾ヲ見ンコト欲ストグレブ之ヲ
 聞テ大ニ驚キ直ニ家ヲ發シ中途ニシテ夜ニ及ヒ馬仆レテ
 足ヲ傷ケ再ヒ馬ニ跨ルコト能ハサレハ前路ノ甚急ナルヲ以

テ水路ヲ取リスモレンスクノ近傍ニ至ル時兄弟ノウゴロ
 ト侯ヤロスラウノ使者ニ遇フ使者ハグレブニ告テ曰ク爾
 スワットボウクノ許ニ往ク勿レ父君已ニ死セリ今王宮ニ之
 クモ復父君ニ見ユルコト能ハス且スワットボウク已ニボリス
 侯ヲ殺シ今又爾ヲ殺サントスレトグレブ是ノ報ヲ得テ悲歎
 遣ルナク大息シテ曰ク主ヨ我レ又何ヲカ爲スヘキ噫我レ
 此ノ世ニ活キ永ラヒンヨリ寧兄弟ト共ニ死スルニ若カス
 我レ何ノ所コカ再ヒ兄弟ノ聲ヲ聞テ得ン又何ノ處ニカ其
 温顔ヲ見ルヲ得ンレトヤロスラウノ警報少シク遅クシテ遂
 ニスワットボウクノ毒手ヲ脱ルコト能ハス此ノ時已ニ刺客襲

七來リテ劍ヲ拔イテグレブヲ斬ラントシケレハナリグレ
 プ之ヲ見目ヲ擧ケ天ヲ仰キ主ニ祈リ祈禱ト共ニ靈ヲ主ニ
 復歸セリグレブノ主膳スワットボウクノ歡心ヲ得ント欲シ
 刺客ニ通シグレブ侯ヲ刺シ貫キ而シ其遺体ヲ河岸ニ棄テ
 上ニ薪ヲ積ミテ之ヲ燒カントセシカスモレンスクノ人々
 グレブノ亡体ヲ歛メテスモレンスクニ葬レリ
 斯クテスワットボウクハ尙ホ惡意ヲ逞ウシ第三ノ兄弟スワ
 ヲスラウヲ殺セリ既ニシテヤロスラウ侯義兵ヲ擧ケ兄弟
 ノ仇ヲ報セント欲シスワットボウクト戦ヒ血ヲ流ス一四年
 ニシテスワットボウク援ヲ外舅ボルシヤ王ニ請ヒシカ是ソ

露國ノ爲ニ後來ノ強敵ヲ招キタルナリ
 或日嘗テボリスヲ殺セシアリタ河ノ濱ニ於テ兩軍大ニ戦
 ヒシカヤロスラウ侯大ニ呼テ曰ク主ヨ我カ兄弟ノ血爾ヲ
 呼ヘリ我カ神ヨ爾ニ祈ル此ノ義人等ノ血ノ爲ニ仇ヲ報ス
 ル一尙ホアワエリノ血ノ爲ニガイソニ報スルカ如クナラシ
 メヨトヤロスラウ自ラ兵ヲ指揮シスワットボウクノ軍ヲ破
 リテ之ヲ走ラシスワットボウク戦ヒ疲レテ馬ニ乗ル能ハザ
 レハ兵士等之ヲ輿ニ乗セテ走ラシメタリスワットボウクハ
 神ノ義怒ニ觸レシユヘ心狂亂シ常ニ敵兵ニ追撃セラルカ
 如キ思ヒアリテ定マル一ナク四方ヲ吟過シ遂ニボゲムノ

曠原ニ於テ知覺ヲ失フテ死セリ。史上彼ヲ稱シテ神ニ誼ハレシ者ト云フ。

斯クテ戰ヒ終リテヤロスラウ侯キコウニ君臨セシ後グレツノ亡体ヲスモレンスクヨリ移シボリスノ遺骨ト同シク聖ワシリイノ堂中ニ安置セシカ數年ヲ經テ聖堂燒失セシ時休徵アリテ二侯ノ墓上ニ顯ハレシカハヤロスラウ侯新ニ聖堂ヲ造營シ二侯ノ棺ヲ安置セントシテ墓ヲ發キ見ルニ二侯ノ遺体ハ少シモ朽ルコトナカリキ後ヤロスラウノ子イズヤスラウ大侯ノ時ニ至リア此ノ聖堂大ニ破損セシユヘ大侯ハボリス及ヒグレフノ名ニ依テ新ニ聖堂ヲ立テ苦

難ヲ忍ヒシ聖ナル二侯ノ不朽体ヲ安置セリ實ニ降生一千零七十二年五月十四日ナリ是ヨリ此ノ日ヲ以テボリス及ヒグレフ二侯ノ遷座祭ヲ行ヘリ後ウラデミルモノマフ侯ノ時寶石珍珠ヲ以テ飾リタル銀棺ニ收メテ最ト嚴ニ新聖堂ニ遷座シテ之ニ安置セリ是レ亦實ニ降生一千一百十七年五月十四日ナリ而シテ多クノ奇蹟アリテ苦難ヲ忍ヒシ聖者ノ不朽体ヲ榮セシカハ露國ノ人民深ク之ヲ尊ヒ謹テ其紀念祭ヲ行ヒ二人ヲ稱シテ在天ノ保護者ト爲セリト云フ。

○ホルガリヤ王、福禱ナルボリスノ紀念同日

露國ノ西南黒海トドナイ河ノ間ニホルガリヤ人住居セリ

固ヨリ露國ノ人民ト同種族ニシテ宗教言語モ亦同シカリ
 キ抑モボルガリヤ人ハ昔時ヨリ勇敢ニシテ戦闘ヲ好ムノ
 民ト稱セラレ屢々クレンヂヤ帝國ノ北境ヲ侵シテ之ヲ乱シ
 加之ナラヌコソスタンテノ一ポリチモ脅カセリボルガリ
 ヤ人ハ斯ク屢々グレンヂヤ人ト葛藤ヲ開キ交通セシ故第八
 世代ノ頃ニハ正教ノ何物タルヲ知り第九世代ノ始ニハボ
 ルガリヤ王ボヤンナル者ハリスミス正教ノ爲ニ致命セリ
 彼レ嘗テ久カラスニテ正教ノボルガリヤ全地ニ蔓延セン
 一チ預言セリ
 此ノ預言幾クモナクシテ果シテ應シ第九世代ノ半ノ頃致

命者ボヤンノ姪ボリス(或ハボコリスト云フ八百六十一年
 ヨリ八百六十五年ニ至ル)ボルガリヤノ王トナリシ後民ヲ
 教化シテ正教ノ徒ト爲セリ茲ニボルガリヤニ據ニセラレ
 シグレンヂヤ人フエオドルクフラナル者アリ常ニボルガリヤ
 王ニ説キテ眞ノ神ニ歸セシメントセシカ是ヨリ先キボリ
 スノ少妹ハグレンヂヤ人ニ據ニセラレ王城ニ在リテ巳ニハ
 リスミス教ニ依テ教育セラレタリ
 ボリス王グレンヂヤノ后フエオドラ(ミハイル帝ノ幼時ニシテ
 母后フエオドラノ攝政中ナリ)ト和ヲ構スルニ及ヒ互ニ據チ
 交換シテクフラハグレンヂヤニボリスノ妹ハボルガリヤニ

歸リシカ此ノ妹ハ深クハリストス教ヲ信セシカ故力メテ
 兄ヲ正教ニ歸セシメントスレトモボリス容易ニ父祖傳來
 ノ宗教ヲ捨ルヲ欲セサリシカ國中大ニ飢饉疾病並ヒ行
 ハル、ノ時ニ至リボリスハ妹ノ勸ニ從フテ眞ノ神ニ請ヒ
 シニ飢饉疾病頓ニ止ミタリボリス王此ノ奇蹟休徵ヲ見テ
 心大ニ悟リ耳ヲ傾ケテ妹ノ言ヲ聽キ遂ニ使者ヲグレテヤ
 ニ遣ハソハリストス教ノ傳教者ヲ送遣セソテ請ヒシカ
 ハグレテヤ帝ハ先ニ兄弟コンスタンテント倍ニバザルニ
 傳道セシメフォダイイヲ遣セリ一説ニ云フボリスカ使者ヲグ
 レテヤニ遣セシハ正教ノ傳道者ヲ請フカ爲メニ非スシテ

其宮殿ヲ修飾センカ爲メ精妙ナル畫工ヲ送ラソテ請ヒ
 シニグレテヤ帝ノ遣セシ畫工メフォダイイ其機ニ乗シテ聖言
 ヲ傳ヘシカ或ル時ボリス壁上ニ何物カ最ト懼ルヘキ者ヲ
 畫クテ命セシニメフォダイイ公審判ト罪人ノ受苦ノ狀ヲ畫キ
 而シ其意ヲ釋キシニボリスハソフテ及ヒ妹ノ言及ヒ飢饉
 惡疫ノ頓ニ止ミシニヨリ心大ニ悟リ其聖教ヲ受ケントス
 ルノ機ヲ見ハシケレハメフォダイイ神ノ助ニヨリ竟ニ其志ヲ
 遂ケボリスヲ信者トナシ而ソボリス領洗シテミハイル
 ト名ケタリト
 ボルガリヤ人ハ今王カ父祖傳來ノ宗教ヲ棄テシテ見テ大

ニ騷擾セシカ久カラスシテ鎮定セリ然レト傳道者等ノ熱
 心銳意ニ神ノ福音ヲ傳フルニモ拘ラス其民間ニ行ハル、
 一ハ甚微々タリコシスタンテイノ一ポリ城ノ総主教フオテイ
 モ大ニ此ノ地ノ傳道ヲ助ケ書ヲボリスニ送リテ聖教定理
 ナ講明セリスラウヤノ聖師コンスタンティン及ヒメフオデイ
 ノ二人モラウヤニ至リボルガリヤヲ周遊シ其國語ヲ以テ
 民ニ聖言ヲ傳ヘケレハ信シテ洗ヲ受ケシ者甚多カリシカ
 幾クナラスシテ其新ニ起リシボルガリヤ教會ニ騷擾起レ
 リ蓋「パーバ」ニコライハボルガリヤ人ノ反正スルヲ聞キ俄
 ニ數人ノ傳道者ヲ遣セシニ由テ也此ノ時東西ノ教會將ニ

分離セントスル時ナレハロマノ傳道者等ノ教フル所前ノ
 傳道者ノ傳フル所ト異ニシテ信經モ亦異リ加之ナラスス
 ラウヤノ語ヲ用ヰテ奉神禮ヲ行フヲ非トシ之ニ代フルコラ
 テン語ヲ以テシテボルガリヤノ地ニ「パーバ」ノ權ヲ固定セ
 ント欲シテグレチヤ人ト隙ヲ生シ遂ニボルガリヤ人ヲ誘
 導シテグレチヤノ司祭ヲボルガリヤヨリ逐ヒ放タントセ
 リ時ニボリスハ「パーバ」カハリストス教ノ弘布ヲ謀ルニア
 ラスシテ己ノ權ヲ逞ウセントスルノ意アルヲ悟リ當時教
 會ノ疑問ヲ議決セントスル所ノ公會ニ己ノ親戚ヲ遣シテ
 之ニ參與セシメ而シ公會ノ審議ヲ經シ後ボルガリヤ教會

ハ東教會ノ所属タルコトニ議定セリ是ヨリノボルガリヤニ
 スラワヤン語ヲ以テ奉神禮ヲ行フコトニ定メ國人ノ解シ易キ
 平易ノ語ヲ用ヰテ傳道ヲナセシカハ正教ハ國中ニ乍チ蔓
 延セリ
 降生八百八十五年モラウヤノ大主教聖メフォディイ世ヲ去リ
 虔敬ナル主教ゴルザト其後任トナリシカボルガリヤ人喜
 テ之ヲ受ケシカハゴルザト其弟子クリメント、ナウム、ラウ
 レンテイ、サウワ及ヒアングラリイト偕ニボルガリヤニ至
 リ王ノ保護ヲ受ケ銳意聖書ヲ譯シ正教ヲ播布セリボルガ
 リヤ教會ハ祖師メフォディイ(聖人ノ列ニ入レ七聖ト稱シテ之

ヲ尊ヘリ)以下七人ノ教化者ヲ以テ聖人ト爲シ之ヲ尊ヘリ
 總シテ全スラワヤンノ地ハ彼等ノ勤勞ニ賴ラザルハナク且
 十世代及ヒ十一世ニ至リ其近隣ニテ用ル所ノ聖書諸師父
 ノ著述諸聖人ノ傳記ノ如キ悉之ヲ譯シ凡テクレチヤニ在
 ル所ノ者皆之ヲスラワヤン語ニ譯セサルハナシ而シテボル
 ス王厚ク其教化者ヲ保護シ彼等ト談論スルコトヲ好ミ且銳
 意ボルガリヤノ諸郡ニ正教ヲ播布シ多クノ聖堂ヲ建テ主
 教クリメントノ時ニ至リテチフリドニ修道院ヲ造營シ後
 ボルガリヤノ總主教座ト爲セリ
 ボリス王位ニ在テ國ヲ治ムルコト五十年ニシテ國ヲ二子ウ

ラデミル及ヒシメオンニ分テ世塵ヲ避ケテ修道院ニ入り
 タリ然レトウラデミルガハリストス教ヲ守ルノ堅カラサ
 ルヲ見テ再ヒ王ノ衣冠ヲ着ケ長子ヲ退ケ國權ヲ握リ而シ
 貴族紳士ノ同意ヲ得テ全國ノ政ヲ舉テ次子シメオンニ委
 任セリシメオン泰平無事ニ國ヲ治ムルヲ四十年民ニ厚ク
 敬戴セラレ而シテ此ノ時正教モ亦ボルガリヤニ固定セリ
 再說先王ボリスハ只管祈禱禁食ヲ事トシ而モ民ノ爲ニ幸
 福ヲ謀ルヲ忘レサリシボルガリヤ人事アレハ必皆先王
 ニ至リテ其意見ト祈禱トヲ請ヒ王高年ニ至リ安然トシ天
 命ヲ終レリ實ニ降生九百零七年五月十四日ノ事ナリト云

○聖致命者ニスベル其妻ツヤ其子キリアン及フニオ
 ドルノ苦難同日

第二世代ノ頃アドリアンロマニ帝タリシ時ロマニ一富人
 ガタルト云フ者アリシカ「ハリステアノン」ノ一家ヲ贖フテ
 奴僕ト爲セリ抑モロマ人ノ奴僕ヲ使役スルハ最ト慘酷ヲ
 極メ総テ主人タル者ハ生殺興奪ノ權ヲ握リ奴僕ヲ役スル
 殆シト家畜ヲ役スルカ如シ蓋ハリストスノ我等ニ戒メ玉
 ヒシ隣人ヲ愛セヨトノ戒命ヲ知ラザレハナリ故ニ正教ノ
 徒ニシテ異教人ノ奴僕タル者ハ其主人ノ教法、風習、禮儀ヲ

行フカ爲メニハ殊ニ困難ナリ然レト正教人タリシ奴僕ハ
 神ノ法ニ背カザル事ハ悉主人ノ命ニ從ヒ善良ニシテ能ク
 之ニ仕ヘ逆遇チ甘ンシ受ケ悲歎チ耐ヘ忍ヒテ神ノ意ニ適
 センコチ希ヒ以テ我等萬民チ罪惡ノ中ヨリ贖ヒ忠信チ以
 テ神ニ奉事スル者ニ其靈ノ自由チ賜ヒシ主ニ依頼シ使徒
 ノ言ノ如ク行ヘリ聖使徒パウエルガコロス人ニ達スルノ書
 (コロニリス三ノ四ニ)ニ云ク「僕ヨ爾宜ク凡ノ事爾ノ肉身ニ屬スル
 ノ主ニ聽從スヘシ第タ目前ノ服役ニ在リテ悦チ人ニ取ル
 者ノ如クスル勿レ乃誠心チ以テシ且神チ畏レヨ凡ソ爾爲
 ス所ノ者宜ク心ヨリソ之チ爲スコ主ニ於ケル如クセヨ人

ニ於テスルカ如クセザレ既ニ主ニ由テ必副業ノ實チ得ル
 チ知ル蓋爾カ事フル者ハ主ハリストス也
 カタルノ贖ヒシ僕ニスベル其妻グヤハ聖書ニ云ヘル如ク
 能ク其主ニ仕ヘ異教人ノ中ニ在テ主イイススハリストス
 ノ誠チ守リ其子キリアク及フエオドルチ教育スルニ虔敬ノ
 道チ以テシ而シテグヤハ家畜ノ番チ爲シニスベルハ子ト
 偕ニ田園ニ耕作シ其家ニ在リテハ働キチ爲シ終日勞動シ
 或ハ寸暇アレハ熱切ニ在天ノ父ニ祈禱チ爲セリ然レト主
 人ハ彼等カ正教ノ徒タリシコチ知ラサレハ彼等ノ從順ニ
 シテ能ク主命チ行フチ見テ甚満足ノ思チ爲セリ後數年チ

經テキリアク及ヒフエオドール成人トナリ異教人ノ僕タルヲ
 厭ヒ一日母ニ告テ曰ク我等ハ主ハリストスノ誠ヲ守ラン
 一チ欲スル者ナリ故ニ必異教人ノ家ヨリ去ラザル可ラズ
 ト母之ヲ聞キ二人ニ諭シ從順ニシテ主人ニ事ルハ固ヨリ
 本分ナレバ仮令異教人ト居チ同ウスルモハリストスノ誠
 ナ守ルチ得ベキヲ以テセリ然レト血氣甚盛ナリシ少年ハ
 我等ノ爲ニ苦ミヲ受ケ玉ヒシ主ハリストスチ愛スルノ切
 ナルニヨリ其名ノ爲ニ致命セント欲シ己ノ「ハリステア」ニ
 「タル」チ主人カタルニ明カサント母ニ勸メテ曰ク慈
 母ヨ我等チ主人ノ前ニ率ニ往ケヨ我等怖ル「タル」彼ニ主

カ我等ノ口ニ置ク者チ告ケン主ハリストスハ己チイウデ
 ヤ人ノ手ニ渡シ十字架ノ上ニ死シ玉ヘリ我等モ斯ク主ノ
 名ノ爲ニ死シテ永生ヲ得ン「タル」望ム「タル」然レト其母ハ賢ニ
 シテ思慮深キ者ナレハ彼等カ自ラ撰ヒシ功業ヲ成就スル
 能ハサランコトヲ懼レ之ヲ止メントシテ曰ク主ハ我等ニ
 自ラ至難ナル功業ト試ミチ求ムルチ命シ玉ハズ乃自ラ我
 等ニ降シ玉フノ事ニ於テ能ク從順ニ之ヲ耐ヘ忍フチ喜ヒ
 玉ヘリ夫レ從順謙遜ニシテ艱難ヲ忍フハ神ノ聖旨ナリ此
 ノ功業コソ主ノ好ミシ玉フ所ナリト
 然レト少年ハ母ノ言チ用キズシテ己ノ「ハリステア」ニ「タル」

ルヲ主人ノ前ニ明サント決シ或日少年主人ノ室前ニ於
テ主人ニ面シ敬禮ヲ行ヒ而シ高聲ニ己ノ信仰ヲ承認シテ
曰ク爾ハ我等ノ肉体上ニ主タルモ我等ノ魂ハ永遠ノ神ニ
属セリト

カタル是ノ言ヲ聞キ大ニ驚イテ曰ク此ノ子狂スルニ非ス
ヤ其レ父母ヲ呼ヒ來レヨト然レト此ノ時ユスベル主用ニ
ヨリテ他出シ家ニ在ラサレハ他日ヲ待ツテ之ヲ訊問セン
トセリ時ニカタルノ妻將ニ子ヲ産ントスルニ際シケレバ
カタル此ノ時ヲ以テ奴僕等ノ信仰ヲ試ミント欲シ因テ彼
等ヲ別荘ニ遣シタリ抑モ異教人ハ凡ソ祝賀スヘキ事アレ

ハ必己ノ奉スル所ノ諸神ニ献祭セリ其献祭ニ儀式アリ先
ツ家畜ヲ壇上ニ屠リ神官及參拜スル人々ニ其肉ヲ分テ而
シ酒ヲ注キ香ヲ薫シ人々皆供物ヲ食シテ諸神ヲ尊フノ意
ヲ表スル也「ハリスステア」ニ「ハ常」ニ異教ノ祭典ヲ以テ儀サ
レタル食物ヲ食ヒ或ハ其祭ニ與カルヲ以テハリストステ
楽ルト同キト爲セシ故ニ異教人ハ常ニカメテ之ニ與カ
ラシメントセリ
既ニシテカタルノ妻、子ヲ産ミシカハカタル大ニ喜ヒ親戚
朋友ヲ招キ祭典ヲ設ケテ女神フルトーナヲ祭レリ故ニカ
タルノ家ニ於テ衆人大ニ樂ミタレト獨リ別荘ニ在ル「ハリ

ステア^ニ「ハ死ノ近キニアルヲ悟リ切^ニ神^ニ助^テ賜^ハン
 一^ヲ祈^リシカカタル彼等ヲ召^シ他ノ僕婢ト偕^ニ供物ヲ祭
 壇ヨリ待^テ來^ルヲ命^セシ時^アヤ杯盤ヲ持^テ來^ルノ僕ヲ見
 眼^ヲ舉^テ天^ヲ仰^イテ曰^ク主神ヨ願^ハ我等ト偕^ニシテ爾^ヲ
 承認スルカ爲^ニ我等ヲ固^メヨ蓋爾ノ外他ノ神ヲ知^ラサル
 ナリ」ト因^テ杯盤ヲ取^リ悉^ク其盛ル所ノ肉ヲ地^ニ投^シテ犬^ニ
 喰^ハシメ又酒ヲ地^ニ注^キシカハ僕大^ニ驚^イテ直^ニ之^ヲ主
 人^ニ告^ケタリカタル大^ニ怒^リヅヤ及^ヒ其夫ト子トヲ召^シ
 嚴責シテ曰^ク爾等誰^ヲ頼^ミ敢^テ女神^ヲ辱^スト一^ナト乃公ト
 ヲ辱^シメシヤ」トヅヤ斷然トシテ答^テ曰^ク我等ノ頼^ミテ望

メル者ハ^ハイス^スハリ^ストス永遠ノ神ノ子ナリ」ト
 カタル曰^ク彼カ爾ノ子ヲ苦中ヨリ救^フヤ否^ヲ見^ントテ少
 年ヲ酷^ク苦^ムル^ヲ命^セシカ父母泰然トシテ其子ノ苦^メ
 ラル^ヲ見^シ神^ニ望^ミテ属^スヘキ^ヲ勸^メケレハ少年ハ勇^マ
 シクモ多^クノ苦難ヲ忍^ヒタリカタル遂^ニ父母ヲ合^セ火^ニ
 投^シテ之^ヲ燒^キ殺^セシ^ニ彼等皆苦難ノ中ニ在^リテ己^ヲ固
 メ玉^フノ主神ヲ讚揚感謝シツ、魂^ヲ主^ニ復^セシトガヤ
 ○ベチ^ラ修道院ノ院掌成徳ナル^ヲオド^シイ^ノ傳^{十五}日
 露國^キエウ^ウ府^ニ遊^ヒ人^ハ必^シ彼^ノ著^明ナル^ヲベチ^ラ修道院
 ニ詣^テシ^テシ^テ而^シ其^ノ神^ニ嘉^ミセ^ラレ^タル^ヲ多^クノ人^ノ聖

軀ヲ安置セル修道院ハハリストス正教ノ露國ニ入ルヤ直
 ニ設立セラレ而シ其開祖ハチエルニゴウ縣ノリュベナ邑ヨリ
 出テシ聖アントニイ是ヨリアホン山ニ登リテ修士ト爲リ
 第十一世ノ初メキエウ府ニ至リテチアル河濱ノ山中ニ洞
 窟アルヲ見テ此ニ居リシカ幾クナラズシテ其聖行アル令
 名ノ世ニ聞ヘシカハ數人アリ來リテ弟子ト爲リ其師ノ如
 シ又洞窟中ニ栖居セリ弟子ノ一人成徳ナルフエオドシイ洞
 中ノ精舎ヲ増築シ且數字ノ聖堂ヲ建テ修道院ノ周圍ニ井
 柵ヲ圍ラシ而シ同居修士ノ規則ヲ設ケシ故ニ成徳ナルア
 ントニイ及ヒフエオドシイヲ以テ露國修士ノ開祖ト爲シテ

之ヲ虔敬セリ成徳ナルフエオドシイノ傳ハベチテラ修道院ノ
 修士ナリシ初先ノ年代記者チヌトル詳ニ之ヲ述ベテ我等
 ニ遺シ以テ其聖行ニ効ハシム
 成徳ナルフエオドシイハ露國ノ都府キエウニ程近キワシリ
 フ城ニ生レ幼稚ノ時父母ニ隨ヒ移リテクローヌスシ城ニ居
 レリ其父母ハ最ト富裕ナル者ニシテ子ヲ教フルニ法アリ
 シカフエオドシイハ十三歳ノ時父ヲ失ヒ幼時ヨリ全心、神ヲ
 愛シ聖堂ニ詣テ、祈禱ヲ爲シ且聖書ヲ讀ムテ以テ無上ノ
 樂トナシ敢テ兒戲ヲ爲サ、リケリ凡ソ誠心、神ヲ敬愛シ其
 誠ヲ堅ク守ラント欲スル者ハ必隣人ヲ愛スル也フエオドシ

イモ固ク神ノ誠ヲ守リ己ノ所有品ヲ貧者ニ分テ或ハ農夫ノ勞ヲ助ケントシテ借ニ耕耘ニ從事セリ
 フエオドシイノ母ハ子ヲ愛スルヲ甚深カリシモ母子其見識ヲ異ニシ母ハフエオドシイカ弊衣ヲ着、農夫ト伍シテ耕作スルヲ見テ賤業ト爲シ時アリテハ温言、諭スニ富貴ノ願フヘキヲ以テシ或ハフエオドシイヲ譴責シテ農夫ト借ニ耕耘スルヲ止メサセントセリサレドフエオドシイハ世上ノ譏譽ヲ顧ミス只管、謙遜ノ徳ヲ修メ常ニ祈禱ヲ爲シ孜々怠ルヲ勤勉操作シテ世ニ處ルヲ尊榮富貴ニ優レリト爲セリ故ニフエオドシイハ母ノ怒ヲ忍フヲ屢々ナリシカ或日心ヲ

決シテ竊ニ巡拜者ト借ニイエエルサリムニ行カント欲シテ已ニ家ヲ出ラシカ母ハ之ヲ知り急ニ追跡シテ途間之ニ及ヒ酷ク懲戒シ與ニ家ニ歸リタリ其後フエオドシイハ己ノ聖堂ニ於テ聖餅ニ乏ク屢々聖體禮儀ヲ行フ能ハスト聞キ自ラ聖餅ヲ燒キ之ヲ神品ニ遺リテ聖體ヲ行ハシメタリ蓋彼ハ如何ナル事ニテモ神ニ務メント欲スレハナリ彼レ又母ノ與フル錢ヲ以テ聖餅ヲ燒クカ爲ニ麥粉ヲ買ヒ其餘ヲ以テ悉ク貧者ニ分テケレハ人皆フエオドシイノ所行ヲ見テ之ヲ誹笑シケルモフエオドシイハ少シモ意ニ介セス依然トシテ其行ヲ續キタリ又彼レノ母ハフエオドシイノ賤業ヲ執ル

チ以テ家名ヲ墮ス者トナシ大ニ怒テ之ヲ譴責セシニフエオ
 ドシイ大ニ謙リ母ニ對テ曰ク至愛ナル慈母ヨ主イイスス
 ハリストスハ我等ヲ救フカ爲メニ自ラ謙リテ我等ニ謙遜
 ノ龜鑑ヲ示シ玉ヘリハリストスノ至潔ナル聖体ト爲スヘ
 キ餅ヲ製スルハ我ニ於テ何ソ賤シムヘキコナラシヤトア
 リケレハ母ハ一時心ヲ和ケタルモ後又大ニ怒リテフエオド
 シイヲ懲戒鞭撻セルコト屢々ナリキ斯クテフエオドシイ母ノ
 怒ヲ避ケンカ爲メ一司祭ノ家ニ寄食セシカ後一官吏アリ
 フエオドシイノ虔敬ナルト其母ノ慘酷ナルヲ聞キ彼ヲ招キ
 テ已ノ家ニ寄食セシメ而シテ自ラ之カ爲メニ周旋セリフエオ

ドシイハ凡ソ得ル所ノ物ハ悉ク貧者ニ分テ與ヘ自ラ清貧
 ニ甘ンシ勞苦ヲ爲シテ世ヲ渡リ神ニ嘉ミセラレシカ爲メ
 嚴齋ヲ守リ身ニ鐵鎖ヲ負ヒテ慾情ヲ制セシトツエオドシ
 イ全ク世塵ヲ避ケ修道院ニ入ラントスルノ念甚切ナリシ
 カ當時已ニキエウ府ノ近傍ニグレナヤノ修士等カ立ツル
 修道院數多アリケレハフエオドシイ二十三歳ニシテ竊ニキ
 エウ府ニ赴カント欲シ途ニ食スヘキ餅ノ外何一物ヲ携フ
 ルコトナク發足シ數日ヲ經テキエウ府ニ到着シ諸修道院ヲ
 廻リテ修士ト爲ランコトヲ請ヒタレトモ修士等皆貧キ旅人ヲ
 受クルコトヲ欲セサレハフエオドシイ其爲ス所ヲ知ラサリシ

ガアントニイノ成徳ニシテ其聖行ノ著キヲ聞キ心ヲ決シ
 テアントニイノ許ニ至リ老翁アントニイノ足下ニ伏シ己
 チ受ケテ修士ト爲サンヲ切ニ願ヒタリ
 アントニイ曰ク兒ヨ我カ洞窟ヲ視ヨ甚狭クシテ居住スル
 一難シトフエオドシイ曰ク神ハ我ニ救ヲ得セシメンカ爲メ
 ニ我ヲ爾ノ聖所ニ導ヒキ玉ヘリ父ヨ願クハ我ヲ受ケヨ凡
 ソ爾ノ命スル所我レ能ク悉ク之ヲ行ハント此ニ於テアン
 トニイ其請ヲ許シ祝福シテ司祭ニコソニ委託シテ之ヲ
 監督セシメ其後幾クナラスシテ剪髮セシメシカフエオドシ
 イ温順ニシテ善ク其職ヲ盡シ日夜惰ルヲナク祈禱セリ

再説フエオドシイノ母大ニ彼ヲ搜索スレモ其所在ヲ得ザリ
 シガ數年ノ後始メテ彼レカキエウニ居ルヲ知り直ニ彼所
 ニ至リ其生活ヲ營ムカタメニハ凡テ其意ニ任シテ妨ヲ爲
 サ、ルユヘ共ニ家ニ歸ルヘシト懇切ニ勸メタレモフエオド
 シイ已ニ剪髮シテ修士トナリシカハ母ノ意ニ從フ能ハサ
 ルユヘ神ニ祈リテ母ヲ慰メ諭シテキエウノ近傍ニ在ル女
 修院ニ入ラントスルノ心ヲ起サシメタリ
 其後幾クナラスシテ聖アントニイハフエオドシイヲ叙聖シ
 テ司トナセリ此ノ時兄弟集ル者已ニ十二人ナリシカア
 ントニイハ兄弟ヲ弟子ワルラアムニ托シ獨リ幽處ニ棲ン

ト欲シ其傍ヲ距ル遠カラサニ處ニ新ニ一窟ヲ穿テ此ニ移
 レリ斯テ修士等皆能ク道ヲ修メタルモフェオドシイ獨リ殊
 ニ熱切ニ祈禱シ謙遜ヨシテ能ク道ヲ修メ而シテ聖アント
 コイノ降福ヲ受ケ窟上ニ生神女眠ノ一小堂ヲ建タリ久ウシ
 テ大侯イズマスラウハワルラアムヲ以テ其設立セルディミ
 トリイノ修道院ノ院掌ト爲サントセシコ因リ兄弟ハアン
 トニイノ許ニ至リ新ニ院長ヲ立テントテ請ヒシニ聖翁曰
 ク爾等ノ中最ト謙遜ニシテ從順ナル者院長タルヘシト因テ
 兄弟皆フェオドシイヲ推シアントコイノ降福ヲ受テ院掌ト
 ナセリ

是ヨリフェオドシイ事務益々多カリシカ愛テ盡シテ衆ニ務
 メ自ラ最ト難キ事ニ任シテ終日操作シ而シテ夜ニ至レハ祈
 禱シテ次朝ニ徹シ又公祈禱ヲ行フ時ハ常ニ人ニ先シテ聖
 堂ニ至レリ
 修士漸ク多キヲ加ヘケレハ舊窟ヲ修理シ且新ニ數窟ヲ穿
 テタルモ又狹隘トナリシカバ聖アントコイハ大侯ノ認可
 ナ得テ窟畔ノ山上ニ大ナル聖堂ト數字ノ精舎トヲ建テ之
 ナベテニラ(窟)修道院ト名ツケタリ蓋シ諸修士先ニ窟中ニ住
 セシヲ以テナリテ時大約降生一千零六十年ノ頃ナリキ
 當時アントコイ及ヒフェオドシイハ官行ヲ以テ總行ノ總盤

ナ與へ兄弟ヲ勸導セシモ未ク定則アラサレハフェオドシイ
 一修士ヲコンスタンタイノーポリ城ニ遣シストロヂイ修道院
 ノ規則ヲ寫送セシメ之ヲペナエラ修道院ニ施行シテ同居修
 道院ノ規模ト爲シタリ其規則タルヤ祈禱操作ノ時間ヲ區
 分シ修士タル者ハ私物ナク皆共有タルベシ食時ハ必一室
 ニ集ルベシ祈禱終レハ操作勞動スヘシ操作ニ就ク必首長
 ノ降福ヲ受クベシ修士タル者院長ニ己ノ意中ヲ明告セサ
 ルベカラズ是レ人ヲシテ各々自ラ反顧セシメテ大ニ益ア
 ル也蓋惡意邪念ヲ懷クハ罪惡ノ源ナレハナリ若シ人アリ
 惡念ヲ起サハ之ヲ制シ以テ魂ニ勝ツ能ハサラシムフェオド

シイ嚴ク此ノ規則ヲ守ラシメノコトヲ勤メタレハ諸修士
 ナ所置スルテニ至テハ大ニ謙遜セリ若シ人精行ヲ怠ルア
 リテ之ヲ譴メサル可カラサル時ニハ自ラ涙ヲ流シ懇ニ愛
 ヲ盡シテ其魂ヲ救フテ罪惡ヲ以テ之ヲ汚サス主ニ求メ其
 誠命ヲ守リ己ノ犯罪ヲ悔ヒ改ムヘキヲ教ヘタリ聖フェオド
 シイハ善キ書籍ノ魂ノ爲ニ大益アルヲ知リ食後ニハ必
 書ヲ讀ムヘキヲ定メ修道院ニ靈益ノ書ヲ備フルヲコカチ
 盡シタリ此時出版ノ法未ク開ケサル時ナレハ書籍甚乏ク
 一書ヲ得ルタモ甚難ク若シ之ヲ得ント欲セハカメテ之ヲ
 謄寫セサルヲ得ズ而シテ寫字ノ業ハ修道院ニ於テ專之ヲ爲

セリ蓋修士等ノ中ニハ俗人ニ較レハ書ヲ學ヒシ者多クレ
 ハナリフエオドシイ大ニ膽寫ノ業ヲ起シテ之ヲ獎憑セリ
 始メペテラ修道院ハ清貧ニシテ洗フカ如ク修士等ノ働ニ
 ヨリテ僅ニ日ヲ送リシカ堅ク主ニ依頼シテ疑ハサルノ院
 長ハ是ヲ以テ憂ト爲サス兄弟等カ物ニ乏キヲ憂フルアレ
 ハ之ヲ慰メ救主ノ言ヲ引テ曰ク何ヲ以テ飲ミ何ヲ以テ衣
 ルヲ慮ル勿レ天父爾ノ何ヲ需ムヘキヲ知ル惟神ノ國ト義
 ト是レ求メヨト而シテ彼ノ望常ニ空カラズシテ時々思ハ
 サルノ供給ヲ得タリ且虔敬ナル人々夥多ノ寄附ヲ爲スニ
 ヨリ修道院漸々富ミ大侯イズヤスラウ大ニ聖フエオドシイ

チ敬ヒ時々彼ヲ訪ヘ修道院ニ物品ヲ寄附セリワリヤズ侯シ
 モンハ初メロマ教ニ属セシカ新ニ三千余人ノ家人ト偕ニ
 正教ニ歸依シ而シテ修道院ノ爲ニ大ニ計リ後ペテラノ聖堂
 ニ葬ムラレタリ是レ此ノ聖堂ニ葬ラル、者ノ嚆矢ナリ
 聖フエオドシイ修道院ノ傍ニ一舎ヲ建テ鰥寡孤獨ヲ寄食セ
 シメ旅客ヲ宿ラシメフエオドシイ自ラ彼等ノ爲メニ周旋シ
 且大侯ノ前ニハ彼等ノ保護者トナレリ一日盜アリ修道院
 ニ入り什物ヲ奪ヒ去ラントシテ捕ハレタリシカフエオドシ
 イ之ヲ憐レミ其縛ヲ解キ之ニ德義ノ何タルヲ諭シ恐ニ教
 訓シテ之ヲ放チタリ其人フエオドシイノ仁慈ニ感シ遂ニ改

心シテ德義ノ人トナリシト云フ
 聖フエオドシイ博ク他人ヲ助ケ自ラ弊衣ヲ着水ヲ汲ミ薪ヲ採リ爨室ニ在リテ餅ヲ焼キ人ニ先ンシテ勤勞操作シ以テ諸兄弟ヲ獎勵セリ一日支給修士來リ院長ヨ就テ曰ク薪ノ用ウヘキ者ナシ暇アルノ修士^{ケラリ}ニ命メ薪ヲ析カシメヨト成德者答テ曰ク我レ閑暇ナリ之ヲ析カント偶々午飯ノ時ナリシカフエオドシイ兄弟等ヲシテ食ニ就カシメ而シテ自ラ出テ薪ヲ析キタリ食後ニ至リ修士等院長ノ薪ヲ析クヲ見テ皆出テ、操作セルト云フ
 聖フエオドシイノ謙遜辭讓ナルハ無限ナリ或日大侯ノ許ニ

至リ夜ニ及ンテ歸ル時大侯イダヤスラウ安車ヲ以テ之ヲ送ラシムフエオドシイ王宮ヲ出ル未ダ遠カラサルニ年少ナル御者カフエオドシイノ古ヒ破レタル衣ヲ着タルヲ見、之ヲ賤シンテ曰ク修士ヨ爾、終日閑アルモ我ハ終日馬ヲ御シ勞苦シテ日ヲ送レリ今方ニ休息スヘキナリトフエオドシイ其意ニ任セ一泊シ次朝ニ至リ車ニ上リ歸リシ時途ニテ遇ヘル侯伯等皆馬ヨリ下リ禮ヲ行フヲ見、御者大ニ驚キ恐レダリシカフエオドシイ彼ヲ慰メ修道院ニ至リ食ヲ與ヘ慰勞シテ之ヲ歸シタリ
 其後キエウ府ニ内亂起リイダヤスラウ侯ハ兄弟ニ逐ハレ

而シテ兄弟ノ一人スワットスラウ大侯トナレリフオドシイ
 之ヲ見テ大ニ憂ヒ書ヲスワットスラウニ奉リテ其不義ヲ切
 諫シイズヤスラウ侯ニ大侯ノ位ヲ復スヘキヲ勸メタレヒ
 其言用ヰラレズ反テスワットスラウノ怒ヲ招キ流罪ニ處セ
 ラレントセシカ人アリテ侯ノ意ヲ告ケ其戒心ヲ勸メタリ
 シニフエオドシイ從容トシテ答テ曰ク義ノ爲メニ窘逐セラ
 ル、ハ我カ望ム所ナリ此ノ世ニ在リテ何ノ喜カ之ニ勝ル
 者アランヤト然ントスワットスラウモフエオドシイカ人望ノ
 盛ナルニヨリテ遂ニ己ノ意ヲ果サス後自ラフエオドシイノ
 許ニ至リシニ彼レ法ノ如ク國王ヲ迎フルノ禮ヲ盡シテ之

ヲ迎ヒタリレカ大侯、フエオドシイニ謂テ曰ク我レ恐クハ爾
 我ヲ怒リテ我ヲ爾ノ修道院ニ受ケサラント思ヒタリトフ
 オドシイ答テ曰ク我ハ職トシテ魂ノ救ハルヘキノヲ言
 フナレハ爾宜シク之ヲ聽クヘキナリト祈禱ノ後聖者ハ暫
 クノ間大侯ト談話シ主ハリストスノ命シ玉ヘル相愛ノ
 ナ説キ而シテ恐ニ兄弟ニ寶座ヲ復スヘキヲ勸メ後又屢々
 諫言スレヒ皆用ヰラレズフエオドシイ猶ホ忠ヲイズヤスラ
 ウ侯ニ盡シ祈禱ノ時ニモ弟スワットスラウ侯ニ先シタイス
 ヤスラウ侯ヲ記憶セリ此ノ内訌ノ時成徳ナルアントコイ
 モ義ノ爲メニ數月ノ間幽閉セラレタリ

斯カリシ程ニバチエラ修道院ノ修士日ニ月ニ増加シ成徳ノ
 人陸續輩出シ聖フエオドシイノ如ク主ヨリ奇蹟ヲ行フノ異
 能ヲ受クル者多カリキ又修道院ノ上ニ神ノ殊恩ノ休徴顯
 ル、一數回ニシテ時アリテハ修道院ノ傍ヲ過ル者奇異ナ
 ル光ノ修道院ノ上ニ輝クヲ見タリシト云フ或時盜數人ア
 リ修道院ヲ掠奪セント欲セシガ忽然修道院空中ニ在リ且
 神使等ノ歌フヲ聞イテ其奇蹟ナルヲ知リ驟然トシテ其惡
 意ヲ改メタリト云フ
 修士等日ニ月ニ集リ來リ其數大ニ増加シテ修道院中今ヤ
 之ヲ入ル、能ハサルニ至リケレハ成徳ナルフエオドシイ聖

アントニイト謀リテ之ヲ増築セントセシカ二人ノ祈禱ニ
 ヨリ休徴アリテ神ニ新聖堂ヲ建ツ可キ所ノ處ヲ示サレ遂
 ニ石造ノ聖堂ヲ造營セントセリ修道院ノ近傍ニ住メル人
 々ハ異光アリ宛モ虹ノ如クニシテペチエラ修道院ヨリ出テ
 、他ノ丘ニ亘リ而シテ異光ノ中ニ修士等ノ聖詠ヲ歌ヒ及ヒ
 聖堂ヨリ他ノ丘ニ聖像ト聖物ヲ運搬シ聖フエオドシイ其先
 導ヲ爲スヲ見タリ蓋シ此ノ丘ハ大侯スワトスラウノ田庄
 ナリシユヘ大侯大ニ欣喜シテ修道院ニ寄附シ而シテ一千零
 七十三年至聖生神女眠リノ石造ノ聖堂ヲ造營セルニ着手
 セリ成徳ナルアントニイ配所ヨリ歸リ其創工ニ福ヲ降シ

タルモ幾クナラヌシテ世ヲ逝リ聖フェオドシイ自ラ屬ミ工
夫ト共ニ力役シテ之ヲ督セシモ其成功ヲ見ル能ハスシテ
又逝去セリ

聖フェオドシイハ毎年大齋ノ始メヨリラザリノ土曜日迄幽
邃ナル窟中ニ棲居シ堅ク戸ヲ閉チ盛ルニ土ヲ以テシ何等
ノ事アルモ窟中ヲ出ルコトナシ若シ修士等カフェオドシイノ
教ヲ受ケサル可ラサル事アレハ之ヲ窟中ニ穿テル窓ヨリ
告ケ敢テ戸ヲ開クコト能ハサリシ一千零七十四年大齋ノ時
例ニ因テ洞窟ニ棲居セシニ主ヨリ死ノ近キニアルヲ告ラ
レタリ大祭畢リフェオドシイ衆兄弟ヲ集メ死ノ近キニアル

ヲ告ケ互ニ相愛ヲ守ルヘキヲ教訓シ各自其職分ヲ盡メ
キヲ命シヌリ此ノ時幸ニ大侯彼ヲ訪ヒ玉ヒシカハ之ニ別
テ告ケ衆兄弟等カ同心シテ撰ヒシ所ノ修士スラフンヲ立
テ、掌院トナシ且土曜日ノ黎明ヲ以テ世ヲ逝ルヲ告ケタ
リ已ニシテ其日ニ至リフェオドシイ朝早ク衆兄弟ヲ召ヒ集
メ福ヲ降シ最後ノ教訓ヲ爲セシカ聞ク者皆大ニ哭セリフェ
オドシイ之ヲ慰メテ曰ク吾カ肉体ハ爾等ト永訣セルモ靈
魂ハ常ニ爾等ト與ニセント言ヒ畢リ祈禱シテ魂ヲ神ニ復
歸セリ實ニ降生一千零七十四年五月十五日ナリ兄弟等其
遺言ニ從ヒ大齋ノ時恒ニ彼カ孤棲セシ洞中ニ埋葬セリ斯

シテ新聖堂ノ工事ハステファンノ後任ニコンノ時ニ至リ
 始メテ其功ヲ埃ヒシカ其間休徴ノ顯ハル、丁屢々ナリキ
 其一二ヲ舉ケンニ畫工數人アリ王城ヨリ來リテ曰クアン
 トコイ及ヒフエオドシイノ二人我等ニ顯ハレテ其キエウニ
 至リテ聖像ヲ畫クヲ囑セリト又至聖ナル生神女王城ニ
 於テ數人ノ石工ニ顯ハレキエウニ至ルヘキヲ命シ玉ヒシ
 故石工等至聖ナル神母ノ聖像ヲ奉シキエウニ至リテ工事
 ナ助ケタリト茲ニ聖徳ナルフエオドシイノ世ヲ逝リシ後十
 八年ヲ經テ首堂ノ兄弟等議ヲ決シ其遺骨ヲ新聖堂ニ安置
 セント欲ヒシカハ聖母就寢祭ノ前三日掌院ニコン修士

テストル(年代記者)ヲ從ヒテ窟上ニ至リ成徳ナルフエオドシ
 イヲ葬リシ所ノ地ヲ掘リテストル聖フエオドシイノ遺体ノ
 不朽ナルヲ發見セシカハ人民四方ヨリ蟻集セリ一千零九
 十一年八月廿七日就寢聖堂ニ遷座シ一千百零六年正教會
 相議シテ成徳ナルフエオドシイヲ以テ聖人ト爲セリフエオド
 シイヲ信シテ彼ニ依頼スル者ノ爲ニ多ノ仁慈ヲ顯ハシテ
 之ヲ助ケ且病者ヲ醫セリ聖フエオドシイノ遷坐祭ハ每歲八
 月廿七日ニ行ヘリ

○救命女聖ペラギヤノ傳十六日

昔時ロマ帝ディオクリティアン「ハリステアコン」ヲ窘逐セシ時

人アリ帝ニ奏スラクキリキヤ郡タルス城ノ主教シリノ
 ハ銳意ハリストス教ヲ播布スト帝直ニ主教ヲ捕縛シ裁判
 ニ付スヘキヲ命セシガ主教之ヲ悟リ捕吏ノ未タ至ラサル
 ニ先チテ數人ノ信者ト共ニ難チ山中ニ避ケタリ然レト郡
 中到ル所窘逐甚熾ニシテ捕吏、聖主教ヲ搜索スルヲ益々急
 ナリケリ
 此ノ時タルス城ニ艶麗ナル處女ペラギヤト云フ者アリ名
 族某ノ女ニノ母ノ膝下ニ在リテ異教ノ教育ヲ受ケシカ神
 ノ獨一子イイススハリストスハ人々ヲ救ヒ玉ハンカ爲ニ
 死シ玉ヒシヲ信スル所ノ「ハリステアコン」等ト交リ大ニ

喜ヒテ救贖ノ道ヲ聞キ至心誠意主イエススハリストスヲ
 愛シ切ニ聖洗ノ機密ヲ受ケンヲ望ミ是ヨリシテ富貴ヲ
 擲テ世塵ヲ避ケ只管ラ神ニ奉事セントセリ
 茲ニ一貴公子アリペラギヤカ容色ノ絶美ナルニ迷ヒ之ヲ
 娶ラント欲シ使ヲ以テ之ヲ請ヒシカハ母ハ大ニ欣テ之ヲ
 許シタレドペラギヤ之ヲ許サス從容トシテ使者ニ答テ曰
 シ我レ已ニ神ノ子死セサルノ王ニ契約セリト公子其答ヲ
 聞キ一時大ニ憤怒ニ堪ヘサリシモ思テ反シ緩々之ヲ謀リ
 彼ヲ靡カシメント欲セリ母亦ペラギヤニ諭シテ前途榮達
 ラ受ケントスル新郎ニ結婚スヘキヲ勸メテ止マサリシ

カペラギヤハ此ノ世ノ富貴榮達ノ爲ニ其志操ヲ左右セス
 常ニ主教クリノンニ遇フテ聖洗ノ機密ヲ受ンコトヲノミ計
 レリ
 或日ペラギヤ母ニ城外數里ノ所ニ居ル乳母ヲ訪フカ爲メ
 數日ノ暇ヲ玉ハンテ請ヒタリ蓋ペラギヤハ「ハリステア
 ノ」ノ告ニヨリ主教ノ住所ヲ知り其地ニ至リテ主教ヲ捜サ
 ント欲セシナリ母之ヲ許サ、リシカ其夜處女夢ニ主教ニ
 遇ヒケレハ洗禮ヲ受ケントスレノ望彌々切ニ必之ヲ果サ
 ント欲シ再三母ニ請フテ遂ニ其許可ヲ得タリシカ母ハ女
 ヲ視ルコト已ニ貴夫人ノ如クシ金銀珠玉ヲ以テ飾繕セル錦

衣ヲ裝ハシメ美麗ナル小車ニ乗セ數人ノ從者ヲ從ヘテ之
 ヲ遣ハシタリ
 ペラギヤニ從フ諸僕中ニペラギヤカ正教ヲ信セシヲ悟リ
 シ隱密ノ「ハリステア」等アリ郊外數里ノ樹木森々タル
 一山ノ麓ニ至リシ時山ヨリ降ルノ一翁ヲ指テ曰ク彼ノ老
 翁ノ誰タルヲ知ルヤ彼ハ神ノ人ニシテ異教人カ殺サント
 欲シテ搜索スル所ノ主教クリノンナリト且從者等行々互
 ニ主教ノ仁徳ヲ賞シ其奇蹟ヲ行ヒシヲ語リシカペラギヤ
 車中ニ在リテ從者ノ言ヲ聞キ因テ車ヲ止メシメ大ニ喜ヒ
 テ主カス速ニ彼カ見ント欲スル所ノ者ヲ遣ハシ玉ヒシ

ヲ感謝シ車ヲ下リ從者ヲ留メ主教ニ謁センカ爲ニ獨リ山ニ登リタリ

斯クテペテギヤ主教ニ遇ヒ彼ヲ稱シテハリストスノ奉事者ト爲シテ其前ニ伏拜セリ

主教曰ク童女ヨ我カハリストスノ平安ハ爾ト俱ニセント處女呼テ曰ク夢ニ爾ヲ見セシメ我カ魂ヲ亡ヒヨリ救ハン

カ爲ニ爾ヲ我ニ遣ハセシ主ハ讚揚セラルヘシト且曰ク爾ハ主教シリノナル乎曰ク我ハハリストスノ永生ヲ受ケ

ンヲ希フ所ノ言語アル羊群ノ牧者ナリ處女曰ク爾ノ羊群ハ何ヲ學ヒテ永生ヲ受クルヲ能クスルヤ主教曰ク我

ハ彼等ニ父ト子ト聖神ヲ承認スルヲ教ヘ且導キ諭スニ主ノ律法ニヨリテ生活シイイススハリストスヲ愛スヘキ

ヲ以テセリ處女曰ク聖ナル父ヨ爾ノ神ニ体合センヲ希フ者ノ爲ニ何カ最ト肝要ナルヤ願クハ之ヲ教ヘヨ主教

曰ク罪ノ免シヲ得テ永生ヲ受クルノ洗禮是ナリト其時ペテギヤ、シリノ足下ニ俯伏シテ曰ク我レ不當ナ

ル者ニ聖洗ヲ授ケテ我カ潔ウセラレシ魂ヲハリストスニ媒セヨ蓋彼ハ義ノ大陽ナリトシリノ處女ノ言ヲ聞キ大

ニ喜ヒ手ヲ舉ケ祈リテ曰ク眞理ヲ悟ルカ爲ニ此ノ處女ヲ導キ玉ヒシ主神ニ爾ノ至愛ナル子ノ聖洗ヲ以テ之ニ賜ヘ

ヨト祈リ未タ終ラサルニ奇哉忽二人ノ傍ニ清泉湧キ山ヲ
 神使カ雪ヲモ欺ムクヘキ皎々タル白布ヲ持テ清泉ノ上
 ニ立テルヲ見タリ主教祈禱シテ清泉ヲ聖ニシ且呼テ曰ク
 萬有ノ王爾ノ報道者ナル神使ヲ造リ火ヲ以テ僕ト爲セシ
 者ヨ我レ不當ノ者ヲシテ此ノ爾ノ遣ハセル處女ヲ爾ニ獻
 スルニ堪ユル者ト爲シ彼ヲ爾ノ撰セシ者ニ加ヘ彼ヲ爾ノ
 恩寵ニ浴セシメ彼ノ明燈ヲ守リシ五賢女ト與ニ爾ノハリ
 ストスカ新婚ノ宴ニ入ラシメ玉ヘヨト
 祈禱終リテ主教處女ニ洗禮ヲ授ケ己カ持ツ所ノ預聖ノ聖
 体ヲ領セシメタリ是ニ於テ處女地ニ俯伏シテ曰ク聖ナル

父ヨ願クハ神カ己ノ聖神ヲ以テ我ヲ堅メ玉ハシテ祈レ
 ヨト主教之ニ祝福シテ曰ク爾ノ身ヲ獻セシ所ノ神ハ己ノ
 聖ナル寶座ヨリ助テ爾ニ賜フテ爾ニ敵スル者ニ勝テ得セ
 シメ玉ハシト
 處女大ニ欣喜シテ身ニ纏フ所ノ美飾ヲ脱シ之ヲ主教ニ呈
 シテ曰ク我カ父ヨ爾ニヨリテ救テ我ニ賜フ所ノ神ノ爲ニ
 我カ願ヲ退クルヲ勿レ今我ハ爾ノ手ヨリ永生ノ王ノ朽サ
 ル衣ヲ得タリ故ニ今ヨリ後此ノ美服ヲ着此ノ虛飾ヲ爲ス
 ハ宜シカラス爾之ヲ賣リテ以テ其價ヲ貧者ニ分テ且我レ
 主ノ言フアルヲ聞ク曰ク爾ニ事ヘテ又貨財ニ事フルハ

能ハ、ト我レ今貨財ヲ棄テ、主神ニ奉事セシテ欲スレト
 處女拜辭シテ山ヨリ下リ從者ノ待テシ所ニ至レハ彼等ハ
 ペラギヤカ山中ニ於テ見ル所ノ如何ヲ問ヒ之ニ告グルニ
 ペラギヤノ傍ニ一女ノ容色皎々トシテ光リ頭ニ榮冠ヲ戴
 者ノ立テタルヲ見タリト此ニ於テペラギヤ主神ノ道ヲ從者
 ニ説キタリシニペラギヤノ言ニヨリテハリストス教ヲ信
 セシ者數人アリ斯クテペラギヤハ車ニ乘リ途ヲ急キテ乳
 母ノ家ニ至レリ
 處女ハ乳母ノ家ニ留マルヲ數日ナリシカ乳母ハペラギヤ
 ノ性質ト習慣ノ豹變セシヲ見テ大ニ驚キタリ蓋彼レハハ

ラギヤノ人ト爲リヲ能ク知レハナリ先ニペラギヤハ輕躁
 浮薄ニシテ外貌ヲ飾リ己ヲ尊ヒ人ヲ賤ニ驕奢ヲ常トシ珍
 肴佳味ヲ嗜ニ空ク光陰ヲ送り劇場ニ耽リ集會ヲ好ミ唯現
 世ノ快樂ヲ求メタルモ今ヤ謙讓沈黙シテ深ク思慮シ富貴
 快樂ノ爲ニ心ヲ動サズ日々幾回トナク祈禱シ夜中モ亦起
 キ跪キテ祈禱セシカハ乳母之ヲ見テ彼レノ「ハリステアニ
 ン」ト爲リシヲ悟リシカ己モ素ヨリ密ニハリストス教ヲ信
 スル者ナレハ大ニ之ヲ喜ヒ或時彼ニ語リテ曰ク我カ至愛
 ナル女ヨ爾今ニ至ル迄肉体ノ美麗ヲ以テ衆人ヲ驚カセト
 モ今ヨリ魂ノ美麗ヲ以テ神ニ喜ビラル、ベシ蓋我ハ爾カ

在天ノ王ナル眞神ヲ承認スルヲ知ル願クハ神爾ヲ將來ノ
 功勞ニ堅メ爾ニ力ト勝利トヲ賜ハンコト
 數日ヲ經テペラギヤ歸ルヘキ期來リケレハ止ムコト得ス
 家ニ歸リシカ母ハペラギヤカ悉ク錦繡ノ衣裳ヲ人ニ與ヘ
 シヲ見テ心喜ハサリシカ後、彼レノ洗禮ヲ受ケシコト聞キ
 且怒リ且悲ムコト限リナク只管、主教ヲ搜索シテ之ヲ敵ノ手
 ニ渡サントセシカ神ハシリノンヲ護リケレハ彼ノ計畫ハ
 皆徒勞ニ歸シタリ母ハペラギヤヲ罵リ辱メハリストス
 棄テサセントセシユヘペラギヤハ暫シ城ヲ出テ、或所
 ニ潜伏セシカ遂ニ母ヲシテハリストス教ニ歸セシメント

欲シ又家ニ歸リタレト母ハ大ニ怒リテ人ヲシテ新婦カ洗
 禮ヲ受ケシコト貴公子ニ告ケ、レハペラギヤ竟ニ其善意
 ヲ遂クルコト能ハサリキ貴公子、之ヲ聞キ大ニ悲歎シ一度ハ
 帝ニ奏シペラギヤヲ審問シ之ヲ脅迫シテハリストスニ反
 離セシメント慮リタレト「ハリスタアコン」等ハ勝ツ可ラサ
 ル力ヲ以テ多クノ苦難ヲ耐ヘ忍ヒテ生命ヲ愛セサル故斯
 ル手段モ亦益ナシト思ヒ其情懇極リナキノ處女ヲ苦難ニ
 渡スコト敢テセス如何ニモシテペラギヤヲ己カ心ニ從ハ
 シメント欲シタレト遂ニ方術ヲ得サリケレハ望ヲ絶テテ
 終ニ自殺セリ此ノ時ペラギヤノ母ハ貴公子ノ死セシヲ聞

キ帝ノ逆鱗ニ觸レテ譴責ニ遇ハンコト怖レ大ニ怒リ愛ヲ
 割キ自ラペラギヤヲ引イテディオクリティアン帝ニ訴ヘダリ
 異教ノ徒タリシディオクリティアン帝ハペラギヤノ媚媚タル
 容色ヲ見テ大ニ悦ヒ之ヲ收テ皇妃ノ一ニ加ヘント欲シ大
 賞ヲ與フルヲ約シテハリストス教ヲ棄ツルヲ論シタリ然
 レト處女ハ王命ニ從ハスシテ主イエイススハリストスノ聖
 名ヲ承認セシカハ帝ハ刑具ヲ羅列シ銅牛ヲ燒キ其傍ニ處
 女ヲ引キ出シタリ是ハ處女カ其怖ルヘキ苦ミノ甚キヲ見
 テ神ニ反離セント望ミシナリ然レト處女ハ儼然トシテハ
 リストスノ聖名ヲ承認セシカハ遂ニ死刑ニ定メラレタリ

シカ之ヲ見ント欲シテ刑場ニ溼ヒ來リシ人々ノ中ニ「ハ
 ステアコン」モ多カリケレハ彼等皆神ニ此ノ柔弱ナル處女
 ナ難事ニ堅メ玉ハソコ切ニ祈禱セシカ主ハペラギヤニ
 非常ノ勇氣ヲ賜ヒケレハ彼レ身ニ十字架ヲ荷シ泰然トシ
 テ怖ル、色ナク刑具ニ近ツキ自ラ燒紅セシ銅牛ノ中ニ入
 リ聲高ラカニ呼テ曰ク主ヨ我レ軟弱ナル者ナ此ノ功勞ニ
 堅メ玉フノ至上ナル神ノ獨一子ニ光榮讚美ヲ歸スレト言了
 リテ己ノ潔キ魂ヲ主ニ復シタリ實ニ降生三百年ノ頃ナリ
 キ
 斯クテ致命女ノ遺骨ハ郊外ニ棄テラレタレト主教クリソ